

【第2章】 全国アントレプレナーシップ 人材育成プログラム

【第2章】 全国アントレプレナーシップ 人材育成プログラム

■受講機会創出に向けた全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムの検討

- 5.1 全国プログラム（学生）
- 5.2 FDプログラム（教職員）
- 5.3 全国プログラム（特別講演）
- 5.4 全国プログラム プロモーション
- 5.5 全国プログラム 学生向けフォローアップイベント
- 5.6 全国プログラム 教職員向けフォローアップ企画（FD同窓会）
- 5.7 全国プログラム 学生向け教育効果測定

全国プログラム 学生

2024年度学生プログラムの概要

✓ オフラインプログラムとして、全国の学生に対し2025年2月1日、2日に開催した

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
事業背景・目的	不確実性の高い社会においては、課題解決にチャレンジしたり、多様なバックグラウンドを持つ人と協力しながら物事を進めていくことが求められます。しかしながら、日常の学校生活では、自分と近い価値観を持つコミュニティに属することが多い傾向があります。本プログラムでは、全国各地から集まる仲間とのグループワークを通じて、自己認識を深化させ、参加者同士の相互フィードバックによって、自身の行動様式を見直すヒントが得、自分のアイデンティティやマインドを再発見するきっかけとして活用いただくことを目的としています。
募集対象	全国の大学生・大学院生・高等専門学校生 (高校生も数十名程度参加可能) 定員250名程度
開催形式	東京会場でのオフライン開催 Tokyo Innovation Base (STAGE & ROOM)
受講料金	無料（交通費・宿泊費等は自己負担）
その他	全日程を参加した受講者に受講修了証発行
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/student/

プログラム概要

ビジネスでの起業テーマコース

2025年
2月1日～2日

1日目10:30-18:30、
2日目10:30-18:30

2023年度のFDプログラム受講者である東京農工大学 跡部 悠未先生、桜美林大学 小林 美和先生（アシスタント）が講師を担当。

2023年度の講師を務めていただいた 東京大学 馬田 隆明先生のプログラムをベースにアレンジを加えたプログラムを実施。

公式WEBサイト



全国プログラム・学生向け
Program

2024年度 文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム

本プログラムでは、社会課題の解決やビジネスでの起業等、新しい事を起こす際に役立つアントレプレナーシップを体感していただきます。具体的には、グループワークを中心に、様々な機会とツール（大学の研究施設等）を用いて、課題を解決するための必要なスキルと行動様式（技術の活用、仮説検証、顧客インタビュー、セールス等の一連の流れ）を実践を通じて学びます。

不確実性の高い社会においては、課題解決にチャレンジしたり、多様なバックグラウンドを持つ人と協力しながら物事を進めていくことが求められます。しかしながら、日常の学校生活では、自分と近い価値観を持つコミュニティに属することが多い傾向があります。本プログラムでは、全国各地から集まる仲間とのグループワークを通じて、自己認識を深化させ、参加者同士の相互フィードバックによって、自身の行動様式を見直すヒントが得られ、自分のアイデンティティやマインドを再発見するきっかけとして活用いただくことを目的としています。

冒頭の学校生活と違う環境で、自分のアイデンティティやマインドを再発見する前の知識や経験は一切不要です。やりたいことを探している方、これから何

誰でも参加OK!
課題解決に必要なスキルと行動力を学び
未来を切り拓くスキルを身に付けよう!

2024年度 大学生 等対象
学生プログラム受講生募集!

開催終了
2/1 sat 2/2 sun
10:30-18:30 10:30-18:30

Tokyo Innovation Base

2024年度学生プログラムの様子

- ✓ 会場は、いわゆる机と椅子が並んだ教室でなく、自由に交流しやすく、モチベーションも高まるような会場を用意した（会場：Tokyo Innovation Base）

講師による講義



参加者の集合写真（全国各地から学生が参加）



学生のグループワーク



2024年度学生プログラムの概要

- ✓ 2日間で大きく分けて14パートと1日目のセールスパートの宿題を含んだ構成になっており、講義は最小限でワークショップが主体となっている

2日間のタイムスケジュール

10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
オリエン	チーム	アイデア	休憩	顧客インタビュー	Go/No-Go	休憩	MVP開発	セールス準備	懇親会 セールス宿題
ピッチ準備と全体の改善			休憩	ピッチ	ふりかえり	休憩	改善	ピッチ	まとめ 懇親会

- ✓ ワークショップでは、適宜リアルタイムの質疑応答ウェブツールで投票や意見収集を行いながら、学生のフィードバックを参照しながら授業が進められ、学生と双方向のコミュニケーションが取れる工夫がされている

2024年度の変更点と検証事項

- ✓ 2024度は年明け2月の開催、講師はFDを受講した教職員を設定、それに伴い一部コンテンツをアレンジしたことを踏まえ、それぞれに対しての検証事項を挙げ、次項以降で検証事項に対する結果・考察を記載している

昨年からの変更点

検証事項

開催時期

- 2023度は学生の冬休み時期(2023年12月20日-12日)の開催に対して、2024年度は試験期間でもある(2025年2月1日～2日)の開催

- 参加人数や参加者の属性等に影響がみられるか

講師

- アントレ教育を推進できる人材育成の観点で、2023年度にFDプログラムを受講した教職員を講師にした
- 2023年度：東京大学 FoundXの馬田先生
2024年度：FD受講生

- FD受講者が講師を担当する仕組みが機能するか
- ✓ 参加者の満足度・プログラム品質の観点
- ✓ オペレーション観点

コンテンツ

- 2023年度に馬田先生が実施したプログラムをベースに、講師のオリジナリティを追加すべく、コンテンツ内のテーマの追加を行った

- 馬田先生プログラムをベースとし、他の先生が授業を実施できるのか
- プログラムをアレンジする上でのポイントは何か

2024年度取組の主な成果

- ✓ 申込者数及び参加者数を増やし、アントレ教育の未受講者の参加率が増加していることから、これまでリーチできていなかった第3層の集客に成功していると考えられる

2024年度取組の主な成果

	全国プログラム申込人数 (当選人数、参加人数)	アントレ教育の未受講者 参加率	全国プログラム満足度 (学生プログラム)	プログラムの付加価値 (感動体験)
2024年度	410名 (当選人数238名) (参加人数185名)	53%	80%	交流・繋がりに関する 体験が良かったと回答 71%
2023年度	354名 (当選人数210名) (参加人数169名)	39%	85%	60%
2023年度 との比較	56名増加 (当選人数28名増加) (参加人数16名増加)	14%増加	5%減少	11%増加

比率は、小数点以降四捨五入

2024年度取組の主な成果

- ✓ 当選者のうち80%程度が学部生で構成。また、エリアとしては関東が70%程度、次いで関西が10%程度

全国プログラム参加者状況 - 学生（参加者のみ）

単位：名 N = 238	北海道	東北	関東	東海・ 北陸	関西	中四国	九州・ 沖縄	海外	合計	割合
高校生、専門学校生等	0	0	4	1	0	2	0	1	8	3.4%
高専生	0	0	2	0	2	0	0	0	4	1.7%
学部1年生	0	3	46	6	3	1	0	0	59	24.8%
学部2年生	2	4	45	0	4	1	0	0	56	23.5%
学部3年生	1	1	26	3	4	1	1	0	37	15.5%
学部4年生	1	2	29	4	3	2	0	0	41	17.2%
学部5年生	0	0	1	2	1	0	0	0	4	1.7%
学部6年生	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%
大学院修士1年	0	0	7	2	2	1	0	0	12	5.0%
大学院修士2年	0	1	8	0	3	0	0	0	12	5.0%
大学院博士1年	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.4%
大学院博士2年	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%
大学院博士3年	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0.8%
合計	4	12	172	18	22	8	1	1	238	100%
	1.7%	5.0%	72.3%	7.6%	9.2%	3.4%	0.4%	0.4%		

学部生の割合
83.2%

2024年度取組の主な成果

- ✓ 2023年度のFD受講者が、学生プログラムの講師を務める仕組みを2024年度から取り入れたが、満足度が大きく下がる事はなかったため、2025年度以降もこの形式が望ましいと考えている

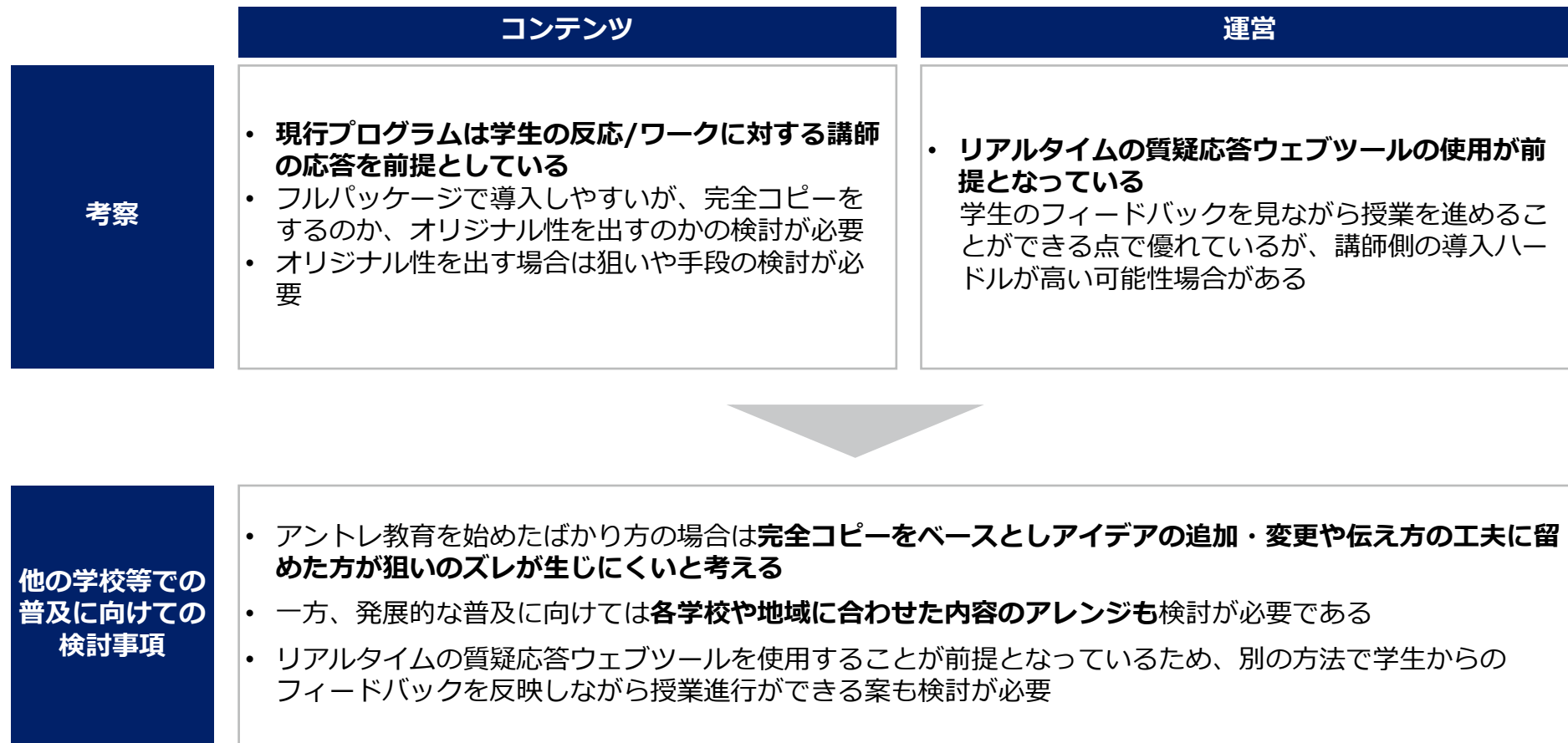
講師・コンテンツの変更に対する検証事項に対する評価と2025年度への引継ぎ

	検証事項に対する評価	2025年度への引継ぎ
講師	■ FD受講者が講師を担当する仕組みが機能するか 事前準備から当日まで大きな問題はなく、参加者の満足度も大幅に下がることはなかった	■ オペレーション観点 2025年度の講師を引き受けてくれる方をどのように選定するのか、継続性があるかについては議論が必要 ■ 参加者の満足度の観点 - 参加学生の層(1~2層)によっては物足りないと感じる場合が懸念されるため、懇親会でのフォローアップ等の対策を検討する必要がある
コンテンツ	■ 馬田先生プログラムをベースとし、他の先生が授業を問題なく実施できるのか - フルパッケージ化されているため、他の先生でも運用が比較的容易である - FDプログラムを受講しているため、馬田先生プログラムの意図を理解していることから、本来の狙い等から大きく外れる事はなかった	■ プログラムをアレンジする上でのポイント 既に完成されているパッケージのため、アレンジ可能な箇所やポイントを予め定めておく方が齟齬が生じにくいと考える

2024年度取組の主な成果

- ✓ 現行プログラムのまま導入しやすいパッケージではあるが、リアルタイムの質疑応答ウェブツールを使用して学生からのフィードバックに応えながら進める前提の構成になっているため、ツールの導入障壁が今後課題となる可能性がある

馬田先生の学生プログラムを他の学校等で実施する際のポイント



実施体制の検討

✓ 2024年度以降のプログラムの検討にあたっては、これまでの取組実績と本事業の目的を踏まえ設計した

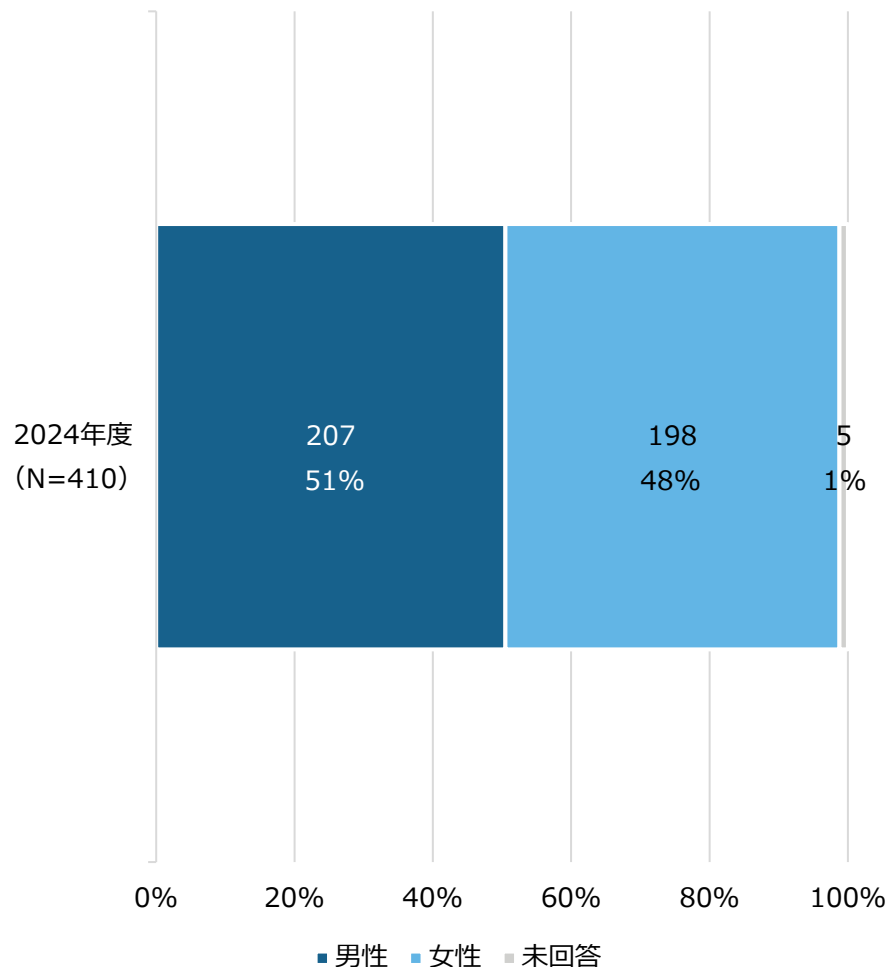
全国プログラム及びFDプログラムの実施体制の検討

	本事業1年目 2022年度	本事業2年目 2023年度	本事業3年目 2024年度	本事業4年目 2025年度	この実現に向けて バックキャスト 本事業5年目 2026年度
全国プログラム	全国on-line 【実証テーマ】 - 大規模なプログラムをオンライン形式で提供し、運営面、教育効果等を検証 - 複数のプログラムを展開し、効果的なプログラムを検証 【講師陣】 馬田先生、鶴田先生	東京off-line 【実証テーマ】 - オンライン形式とオフライン形式で運営面、教育効果等を比較 - FDプログラムと共同開催し、各大学でのアントレ教育の展開の実効性を検証 【講師陣】 馬田先生	東京off-line 【実証テーマ】 - FDプログラム受講した教職員による全国プログラムの運営による教育効果等を検証 - 馬田先生の講義を参考にした授業準備の難易度を検証 【講師陣】 跡部先生、小林先生	形式：XXX 【実証テーマ】 - FDプログラム受講教職員による効果的な全国プログラムの実施の確立（再現性） - 授業準備のプロセスの簡略化・パッケージ化の検証 【講師陣】 未定※	形式：XXX 目的 受講機会に恵まれない学生にアントレ教育を提供する 目標 プログラムを提供できる講師を育成し、各大学にて学生にアントレ教育を提供する
FDプログラム	全国on-line 【実証テーマ】 - 教員向けのFDプログラムのニーズの多寡を検証 - オンライン形式でのFDプログラムにおける効果・有効性について検証 【講師陣】 馬田先生、富田先生	東京off-line 【実証テーマ】 - オンライン形式とオフライン形式で運営面、有効性等を比較 - 学生の学習活動をリアルタイムで観察するFDプログラムの実施体制について検証 【講師陣】 馬田先生、富田先生	東京off-line 【実証テーマ】 - 日本版EntreCompのプロトタイプを用いたFDの運営面・有効性を検証 2023年度のFD受講生の講義・交流による影響度について検証 【講師陣】 馬田先生、富田先生	形式：XXX 【実証テーマ】 - 日本版EntreCompを用いたFDプログラムの実施の確立 - FDプログラムを実施することのできる教職員の育成方法について検証 【講師陣】 未定	形式：XXX 目的 各大学におけるアントレ教育の受講機会の整備に向けた教職員の育成を図る 目標 アントレ教育ガイドを用いたアントレ教育に関する体系的な理解の促進とリアルな実践・交流の機会を提供する

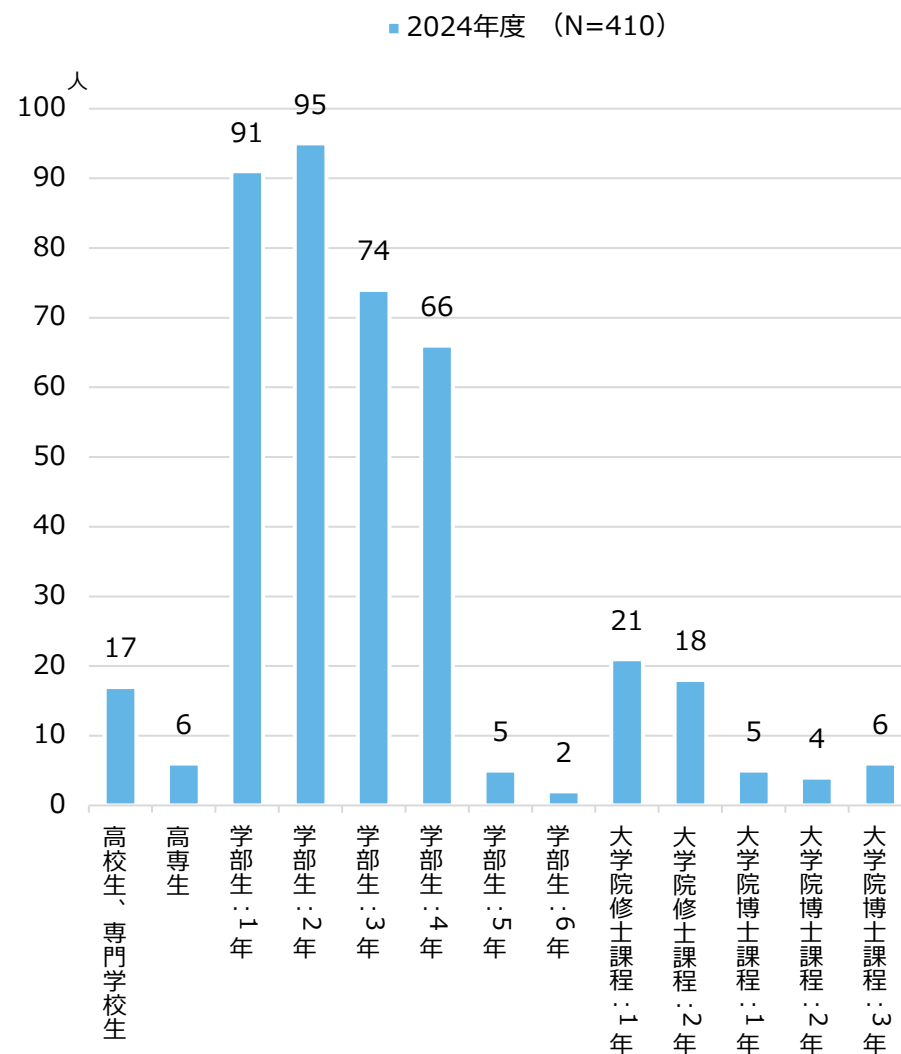
申込者の情報①

- ✓ 男女であまり偏りなく、均等のバランスで申込があった
- ✓ 申込者の内、学部1年生から学部4年生までで全体の約80%を占めたが、高校生の参加も見られた

申込者の性別について



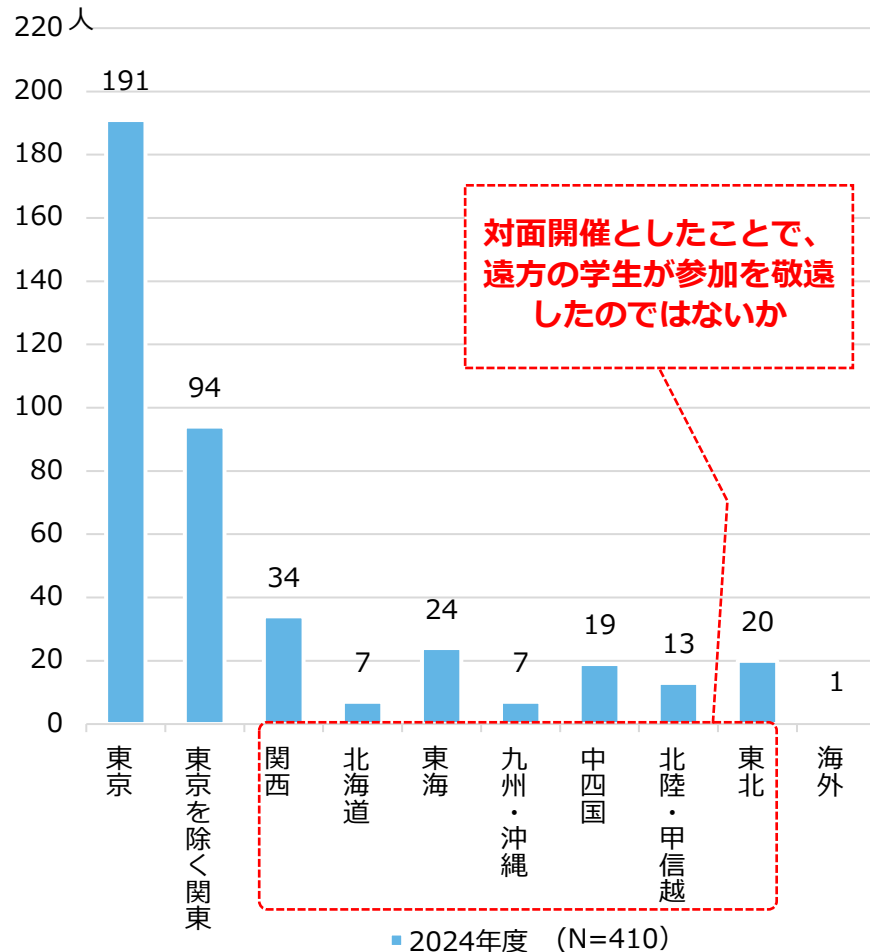
申込者の学年について



申込者の情報②

- ✓ 東京及びその他関東エリアからの申込が多く、全体の70%程度を占めていた一方、遠方からの申込が減少した
- ✓ 文理別で見ると、文系学部の学生が60%以上を占めていた

申込者の所属学校の都道府県について

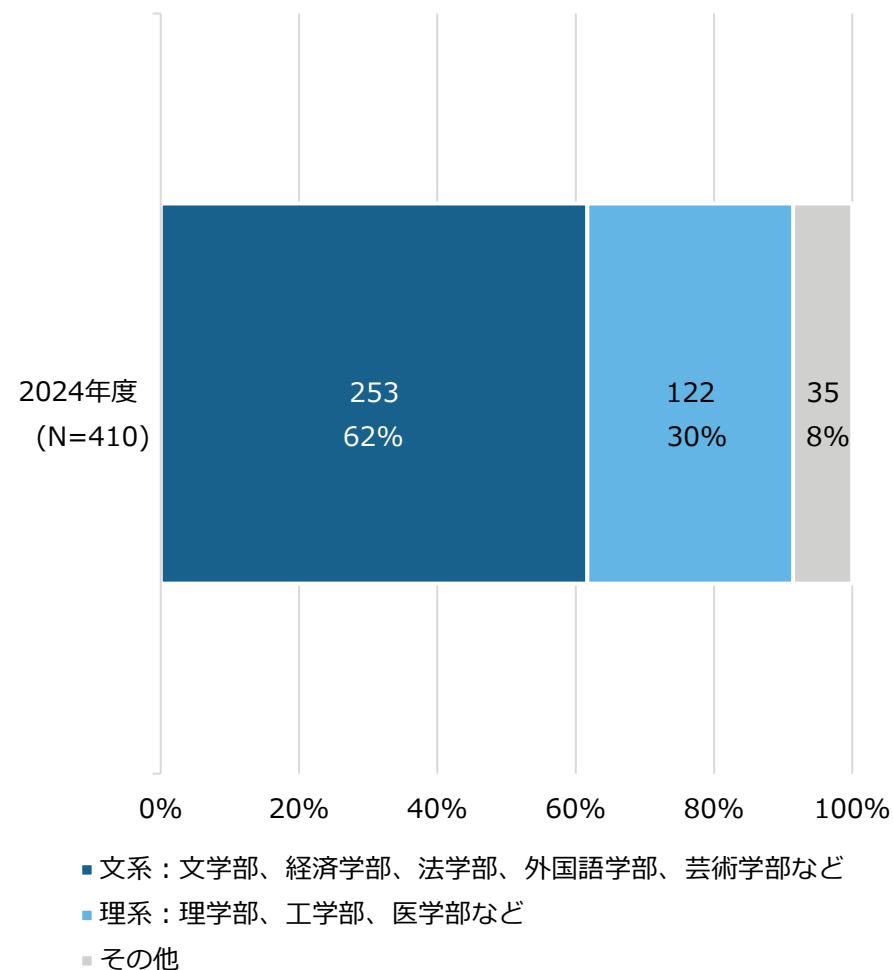


※東海：静岡県・愛知県・岐阜県・三重県／

北陸・甲信越：山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県／

関西：大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県

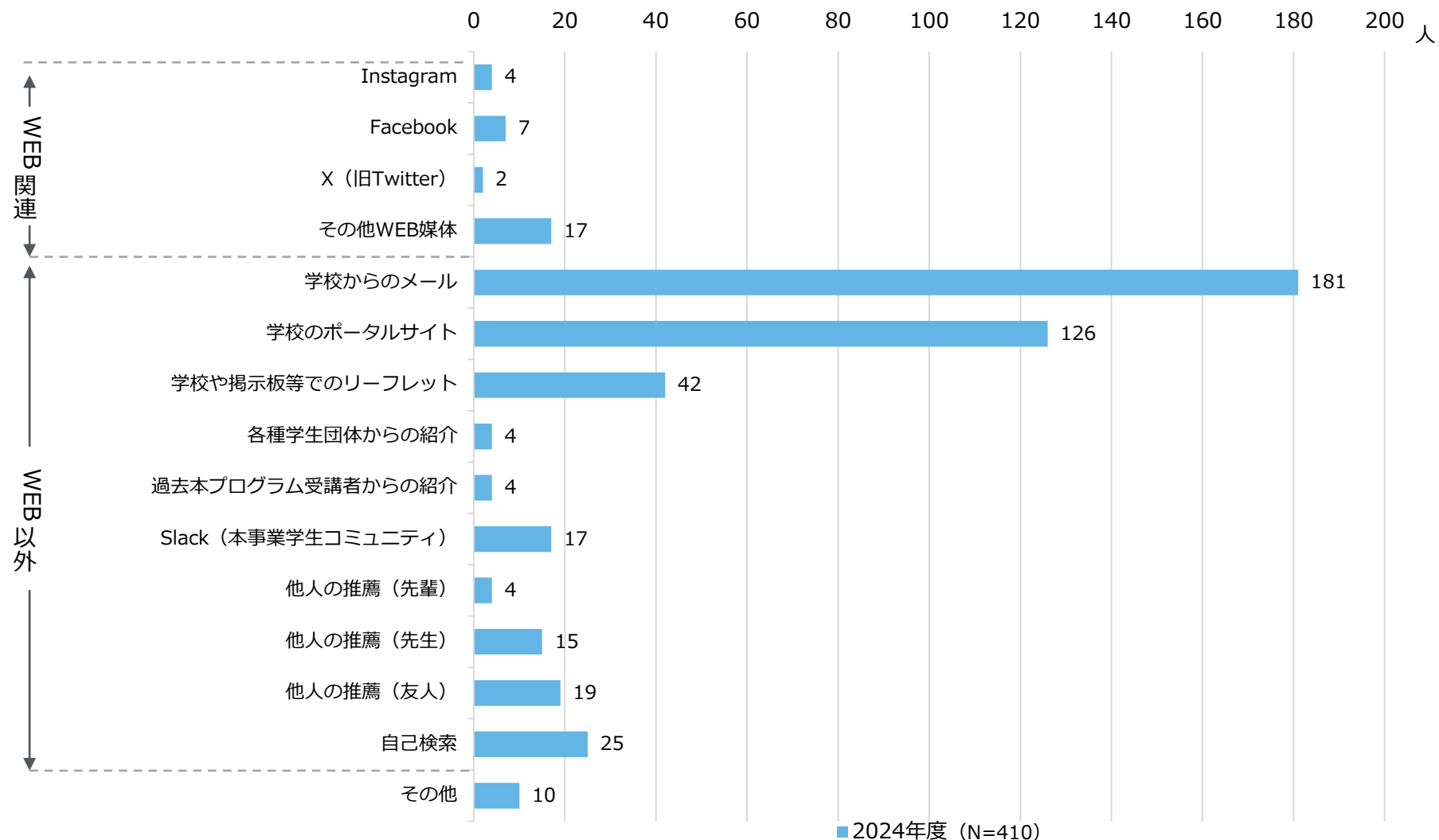
申込者の学問の系統について



申込者のプログラム認知方法

- ✓ 主な認知機会は学校媒体であるものの、普段の大学生活での活動や関わりを通しての認知も広まっており、自己検索によるオーガニックな認知も一定確認されている

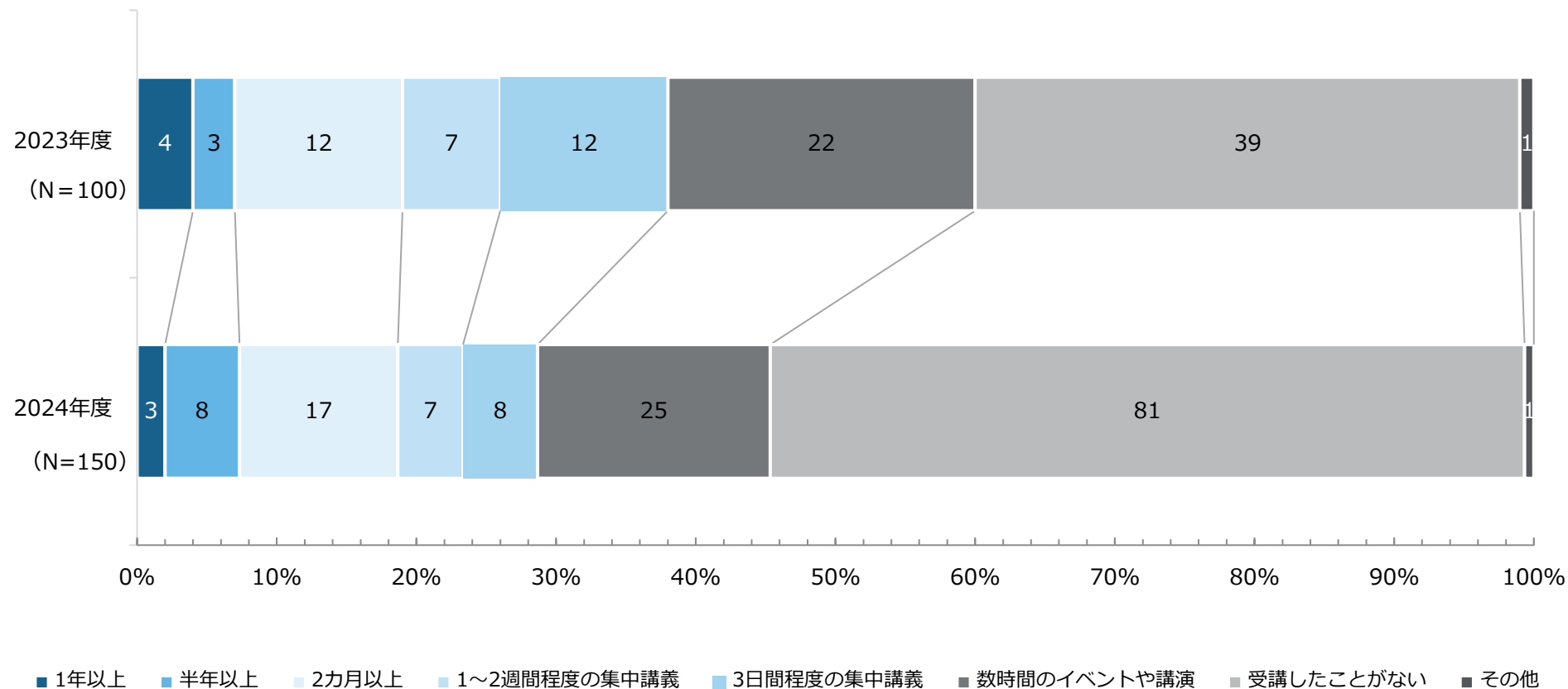
申込者が当プログラムを知ったきっかけについて（複数選択）



全国プログラムの参加者アントレ教育受講歴

- ✓ 申込者の半数以上がアントレ教育を受講したことがない学生であり、「アントレプレナーシップ教育」の認知度の向上や、第3層へのアプローチに成功している

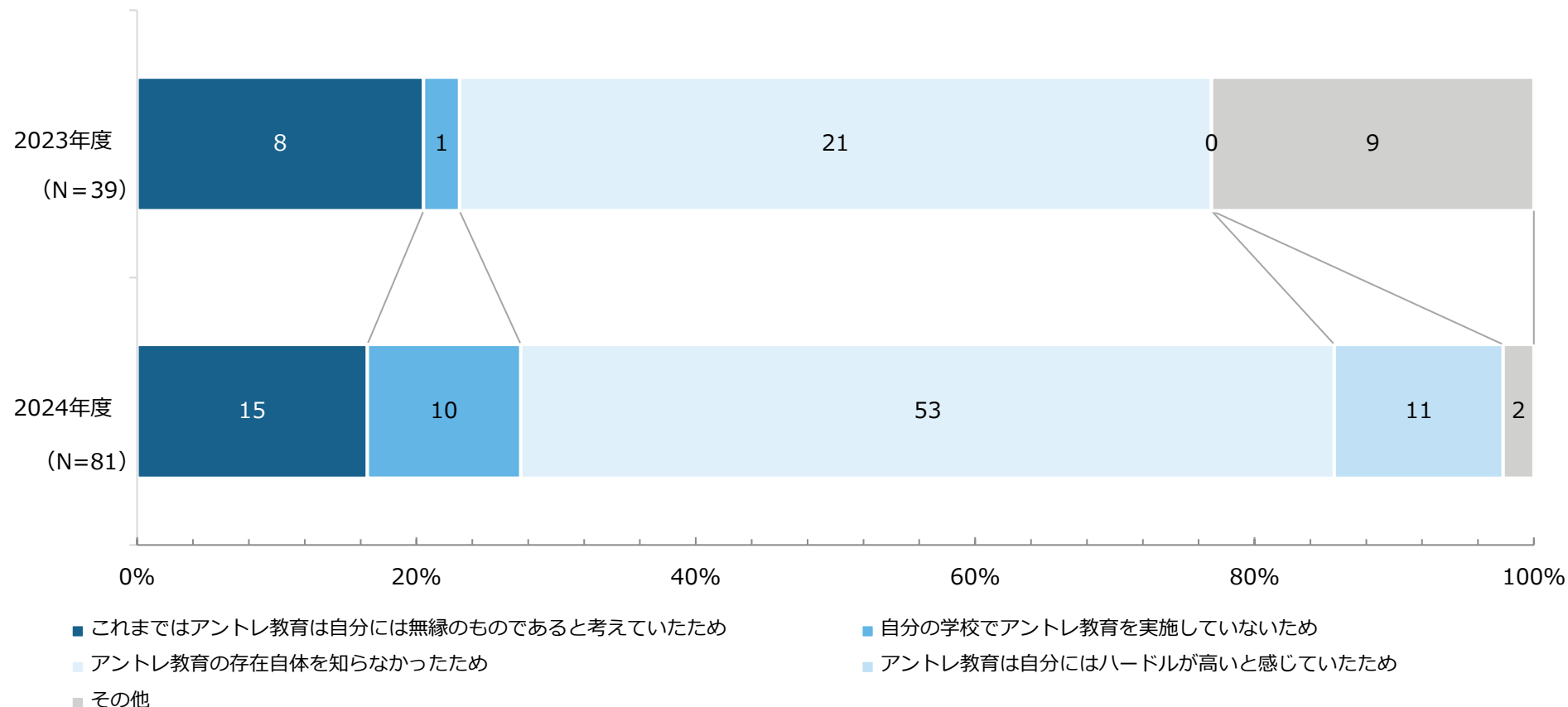
申込者のアントレ教育の受講経験の有無について



全国プログラムの参加者アントレ教育受講歴

✓ アントレ教育の存在自体を知らない方が最も多いが、心理的にアントレ教育との距離を感じている学生が多い傾向にある

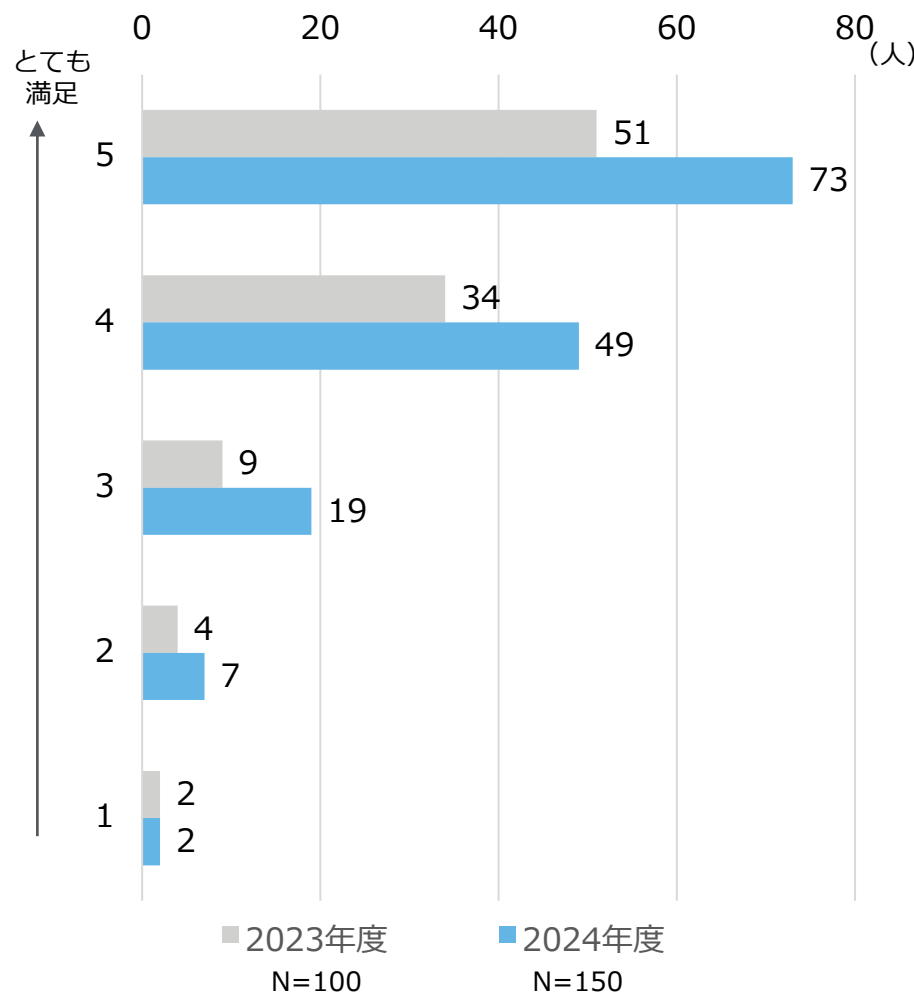
アントレ教育を受講したことが無い理由について（前設問で「アントレ教育の受講経験無し」の回答者対象）



プログラム満足度

- ✓ 全体の80%以上が満足をしている傾向にあり、普段得られない学びに関するコメントが見られた

プログラムの満足度について



左記満足度を選んだ理由（まとめ）

満足度4-5

- ・ 交流会で他の参加者と会話を深めたため
- ・ アントレプレナーシップへの興味が深まったため
- ・ 課題解決の手法に関する理解が深まったため
- ・ 普段の授業と異なる知識を得て視野が広がったため
- ・ 仮説立案や顧客インタビューに対する理解が深まったため
- ・ プレゼンに力を注ぐことができたため
- ・ グループワークで新たなアイデアを出すことができたため

新たな学び

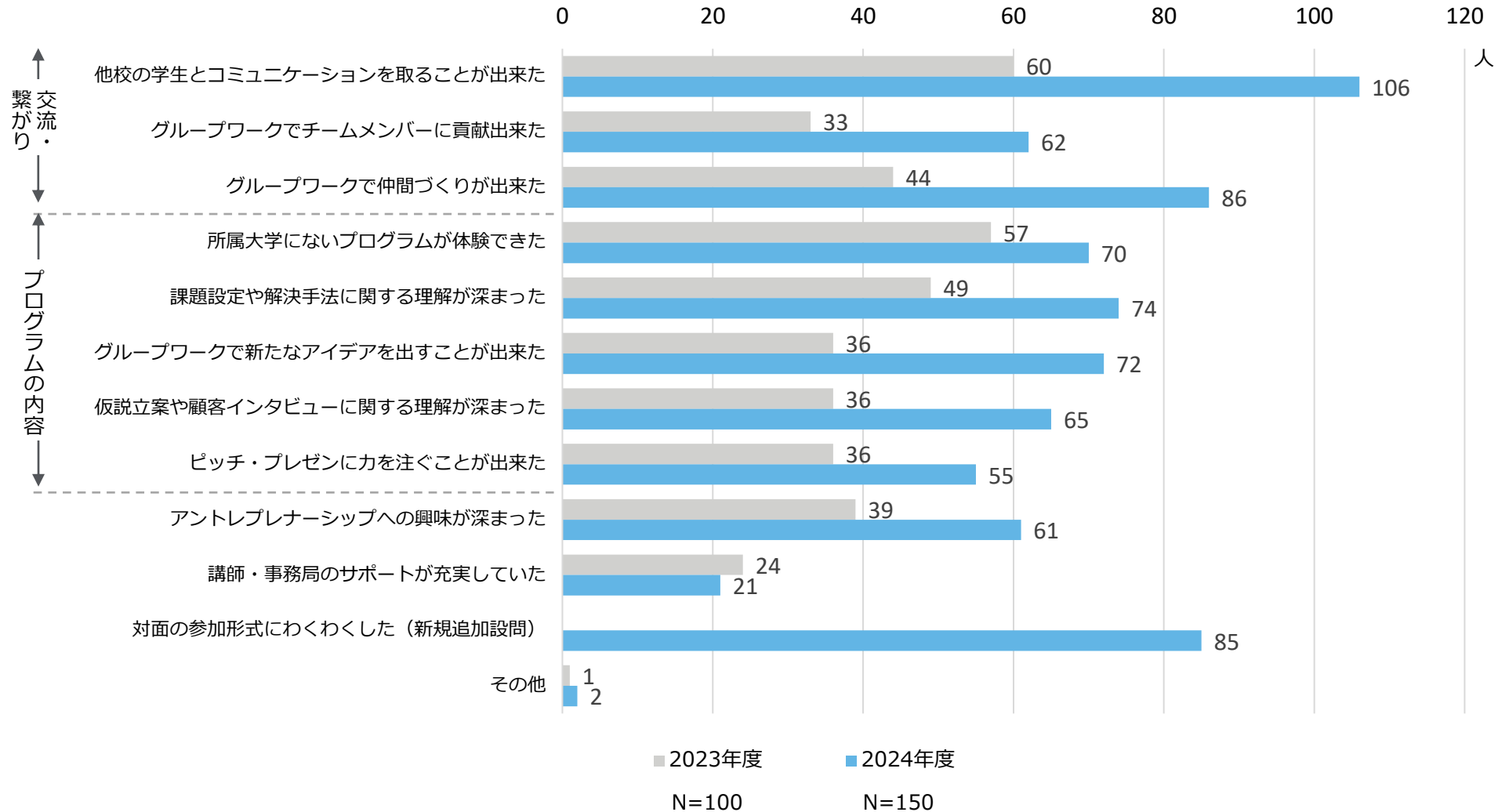
満足度1-3

- ・ 自由度が低かった
- ・ 適切な人にインタビューができなかった
- ・ 講義パートが既知のことについての復習と感じた。新しさを感じられなかった
- ・ 自分でのビジネスのブラッシュアップがあまりできなかった

プログラムの良かった点

- ✓ 「交流・繋がり」に対する感動体験が2023年度に比べてどの項目も+10pt近くスコアを伸ばしている
- ✓ 対面開催で、熱気に溢れた空間を作れたことによって、受講生同士の交流が促進されたと考えられる

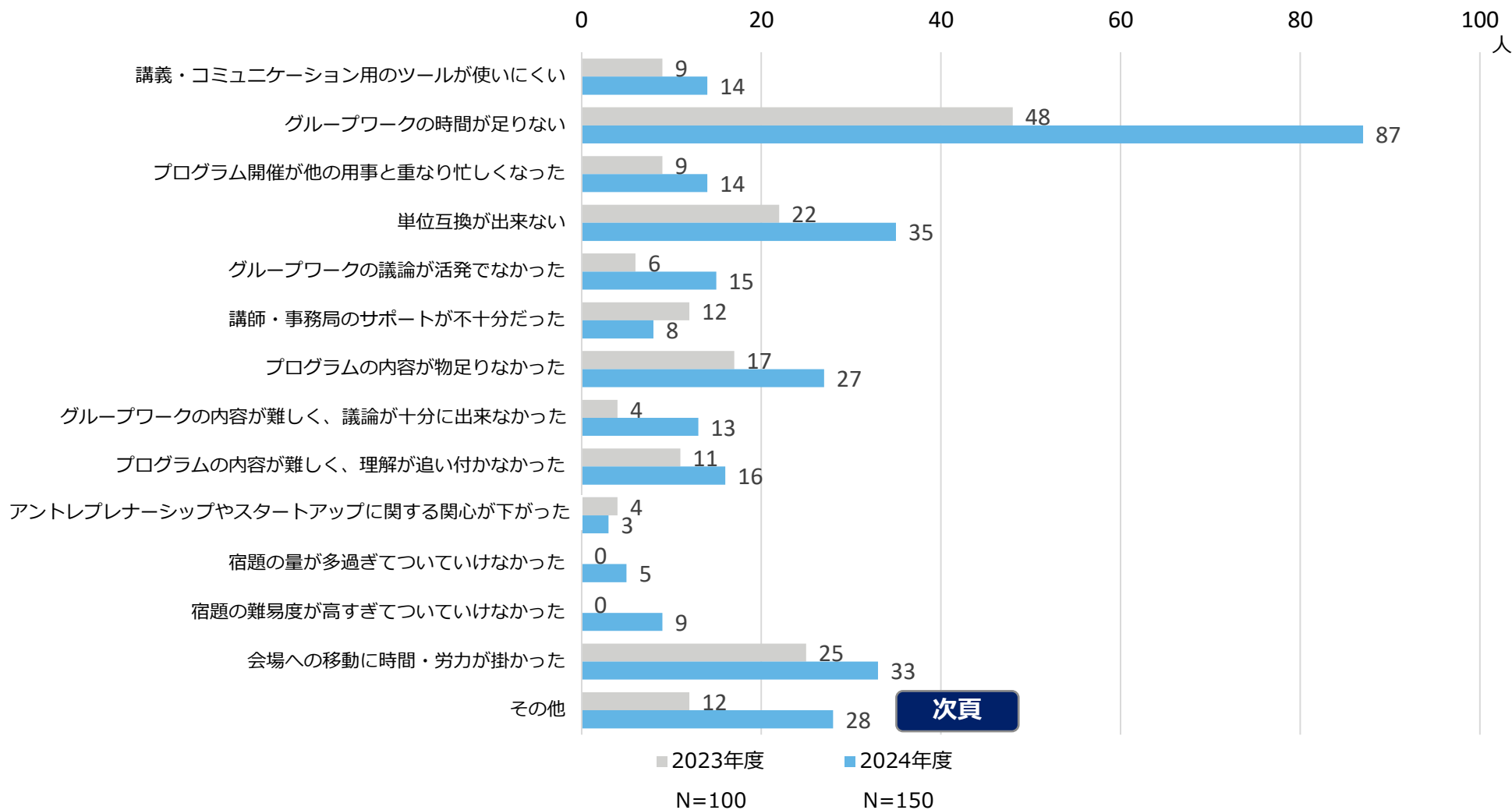
本プログラムの良かった点について（複数回答）



プログラムの改善が必要な点

✓ グループワークの時間が足りないと感じられた点は2023年度よりも比率は高まった

本プログラムの改善が必要な点について（複数回答）



プログラムの改善が必要な点

- ✓ グループワークの運営や会場設備については、依然課題として挙げられた

改善が必要な点について（複数回答）その他の回答まとめ

チーム編成や 取組

- チームによって理解、知識の差が生じていた
- 進行速度が速かった
- 休憩時間が短かった

他の予定との 兼ね合い

- 学校の試験と重なってしまった

会場設備

- 電源が少ない
- 照明が強すぎる
- 音響が悪い

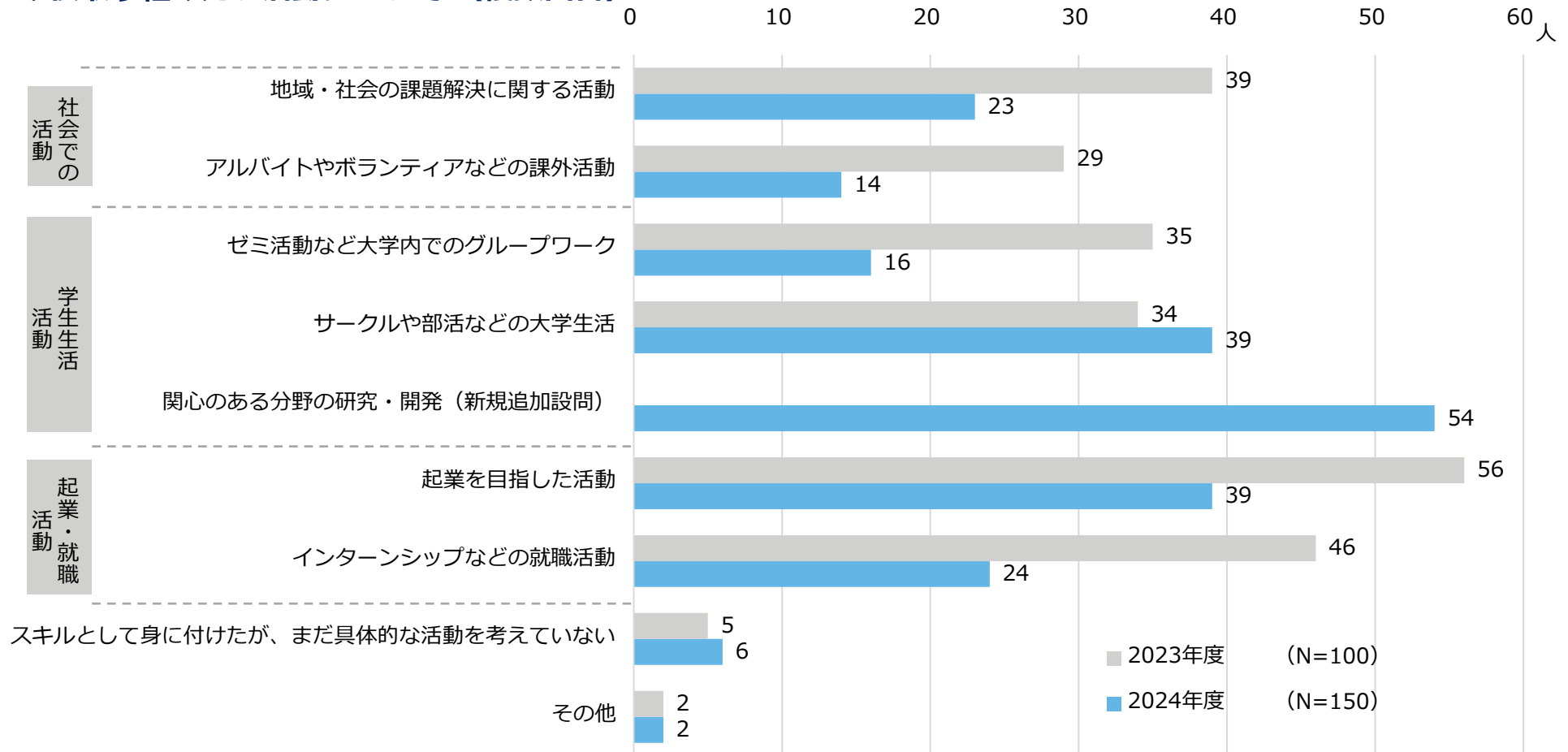
その他

- スライドを共有してほしかった
- 運営のサポートが物足りなかった

今後取り組みたい活動について

- ✓ 社会での活動や起業・就職活動については、2023年度よりもスコアを落としているが、2024年度新規に追加した設問である「関心のある分野の研究・開発」という学校生活活動での活動意欲が高まったことがいえる

アントレ教育で学んだ知識を生かし、 今後取り組みたい活動について（複数回答）



全国プログラム 教職員

2024年度FDプログラムの概要

- ✓ FDプログラムは、今後自大学でアントレ教育を展開できる教職員に対して、2025年1月24日に事前講義と、2月1、2日（学生プログラムと同時期）に開催した

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム -FDプログラム
事業背景・目的	全国アントレプレナーシップ教育プログラムで実施した内容を、全国各教育機関でアレンジしながら展開できるようにするを目的とします。（※ FDとは Faculty Development の略です） 多くの学生がアントレプレナーシップを身に付けるには、アントレプレナーシップを教えられる教員も増えなければなりません。本講義（FD）を通して、アントレプレナーシップを伝えられる方を増やしていきたいと思っています。
募集対象	自学で今後教育プログラムを展開できる大学等の教職員 定員30名程度
開催形式	東京会場でのオフライン開催 Tokyo Innovation Base (STAGE & ROOM) ※隣接の会議室にて実施
受講料金	無料（交通費・宿泊費等は自己負担）
その他	学生プログラムの授業参観（一部授業体験）を実施
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/teacher/

プログラム概要

事前講義
@Zoom
2025年1月24日
17:00-18:30

授業見学、事後
講義@会場
2025年
2月1日~2日

1日目10:30-
18:30、
2日目10:30-
18:30

本FDは、事前・事後の講義と授業参観（一部体験）を通して、各教育機関において同講義を提供するための考え方やノウハウを身に付けるためのものです

1. 事前講義では、全国アントレプレナーシップ教育講義の設計意図を説明します。
2. 授業参観を通して、実際の授業の様子をご覧ください。
3. 事後講義では、授業実施の様子を振り返り、授業を行うための設計の練習を実施します。FD終了後、各教育機関において同講義を展開いただくための資料セットを提供します。

講師：東京大学 馬田隆明先生 富田佳奈先生

公式WEBサイト

2024年度 文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム-FDプログラム

本FDプログラムは、アントレプレナーシップ教育の導入に向けて知識やスキルを身に付けるための教職員向けプログラムです。

FDプログラムの概要

アントレプレナーシップは不確実な環境下において活用できる資源・能力です。不確実性が増える社会環境の中で、アントレプレナーシップが必要となる状況は増えてきています。

FDプログラムは、教員がアントレプレナーシップ教育の推進を支援し、実践することで、学生に行動力や創造力を育むことを目指します。すでにアントレプレナーシップ教育に取り組んでいる方、これから取り組みたいと考えている方の参加をお待ちしています。

文部科学省主催
全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム

本プログラムは、単なる講義を超えた「学び」と「交流」の場です。新たな知識とスキルを身に付け、未来の教育を共に創り上げましょう！

事前講義
2024年1月24日 17:00-18:30

授業見学・事後講義
2025年2月1日-2日 10:30-18:30

開催終了しました
2024年度 教職員 対象
FDプログラム受講生募集！

東京会場 Tokyo Innovation Base

2024年度FDプログラムの様子

- ✓ 学生プログラムを実施する会場とは別の会場でFD講義を行いつつ、学生プログラムの実施会場での参観等を組み合わせながら実施した

講師による講義（サブ会場）



FD参加者の見学及び
学生からのインタビューを受けている様子（メイン会場※）



FD参加者によるワークショップ（サブ会場）



※FD参加者はメイン会場とサブ会場を行き来し、学生の活動の見学、教員間によるワークショップ等に参加した

2024年度取組の主な成果

- ✓ FDプログラムの申込人数は増加し、参加した教職員の満足度、推奨度は2023年度よりも高い結果となり、2025年度全国プログラムの講師を務めることに対してもポジティブな回答をした教員が80%輩出することができた

2024年度取組の主な成果

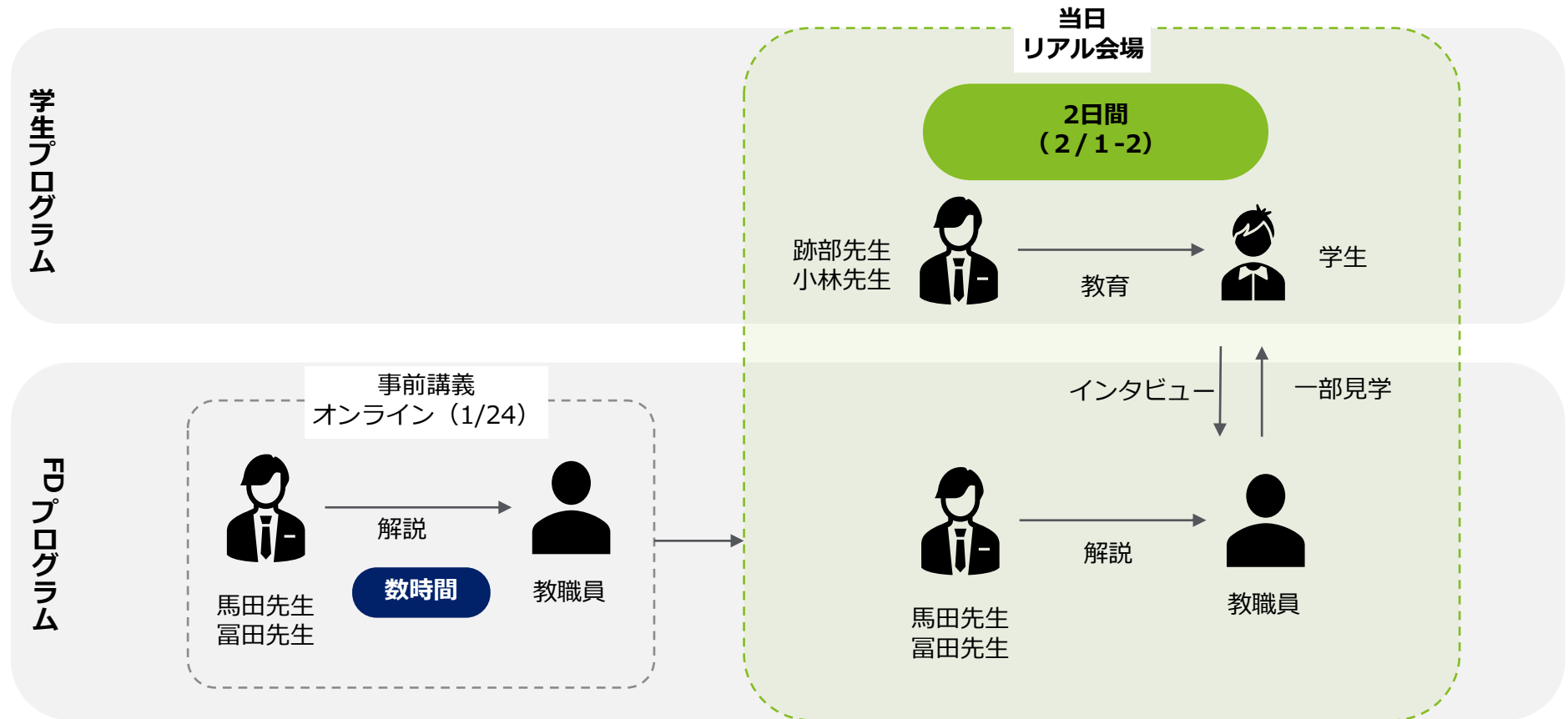
	FDプログラム申込人数 (参加人数)	FDプログラム満足度	FDプログラム推奨度 (NPS)	2025年度全国プログラムの講師を務めることの 意欲
2024年度	91名 (参加人数30名)	100%	75	80%
2023年度	72名 (参加人数30名)	89%	28	(2024年度新規聴収のため NA)
2023年度 との比較	19名増加減少 (参加人数 ±0名)	11%増加	47増加	

比率は、小数点以降四捨五入

学生プログラムとFDプログラムの関係図

- ✓ 学生プログラムとFDプログラムは同時並行で進めた

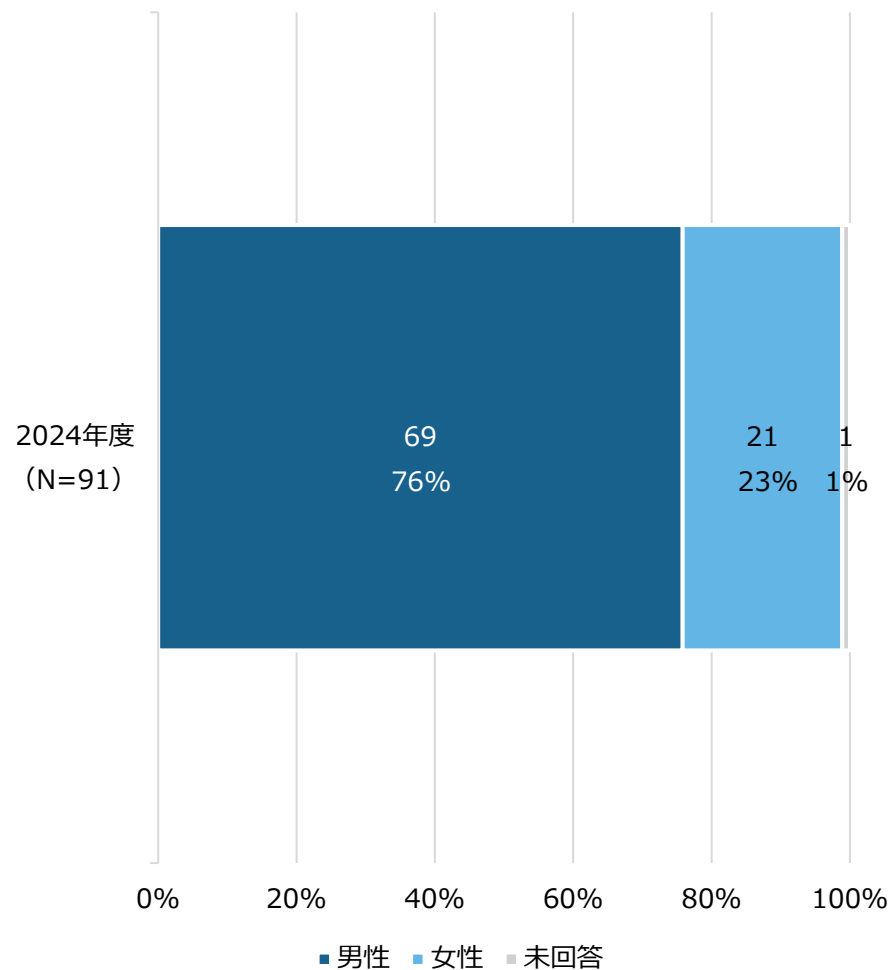
学生プログラム・FDプログラムの全体像



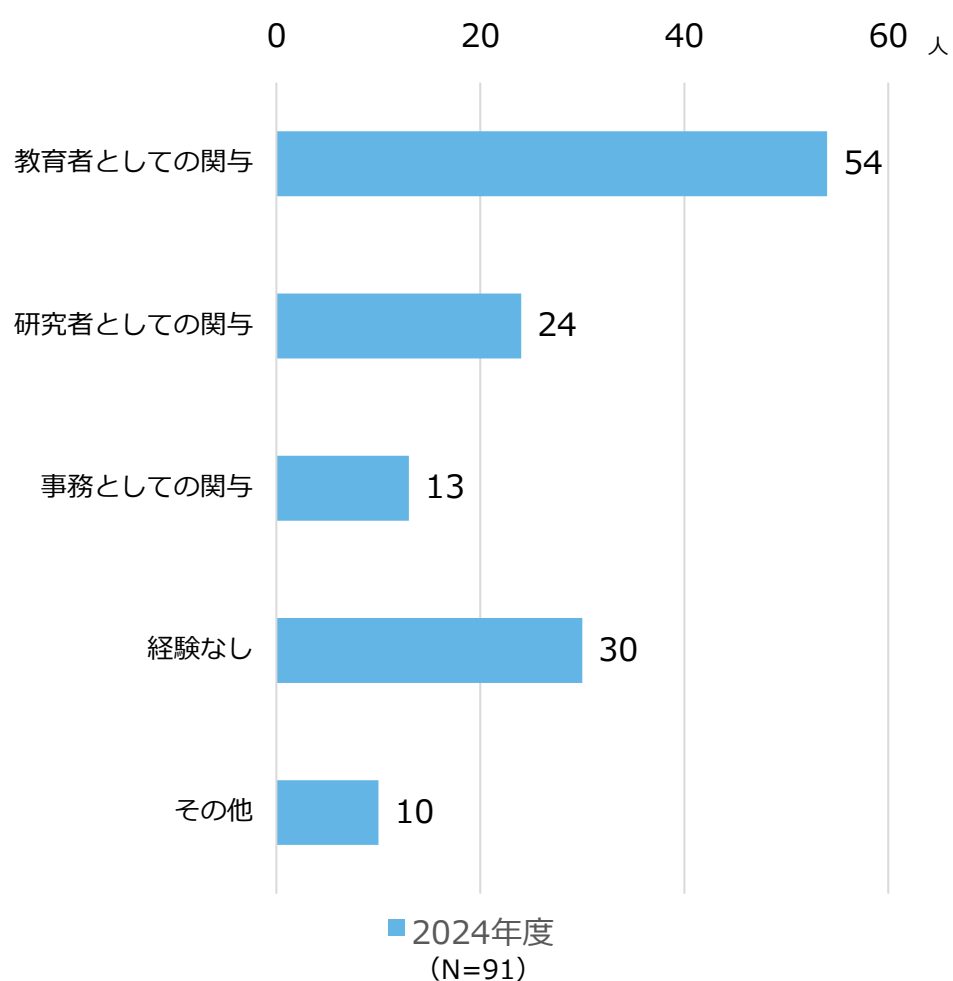
申込者の情報

- ✓ 男性の申込者が女性よりも多い傾向にあった
- ✓ 教育者としての関与したことがある方が最も多いが、アントレ教育に関わった経験のない教職員も多く申し込んだ

申込者の性別について



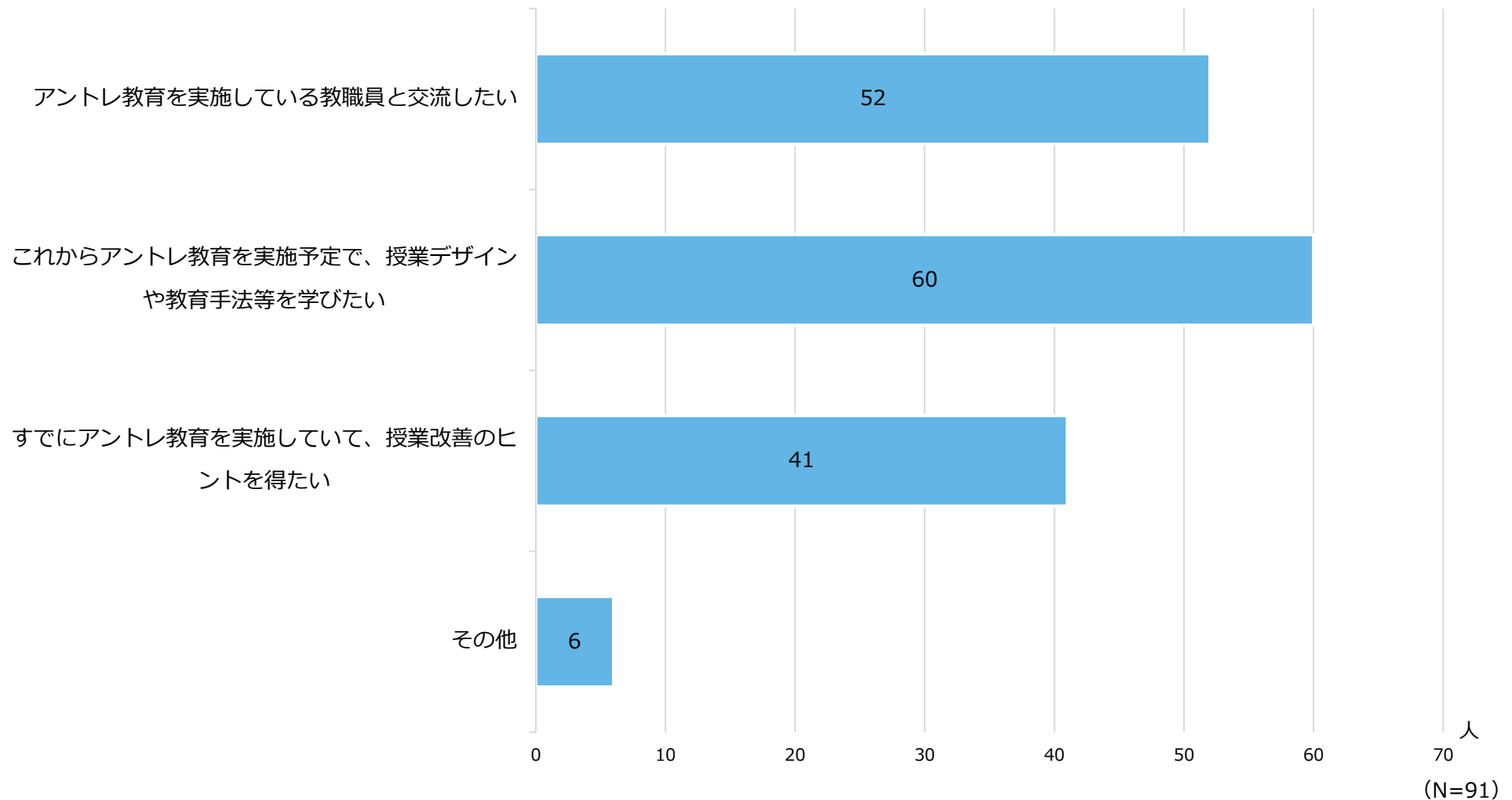
申込者のアントレ教育に関わった経験について（複数回答）



FDプログラムの参加目的

- ✓ FDプログラムの参加目的で最も多かったのが、これからアントレ教育を実施予定で、授業デザインや教育手法等を学びたいであった

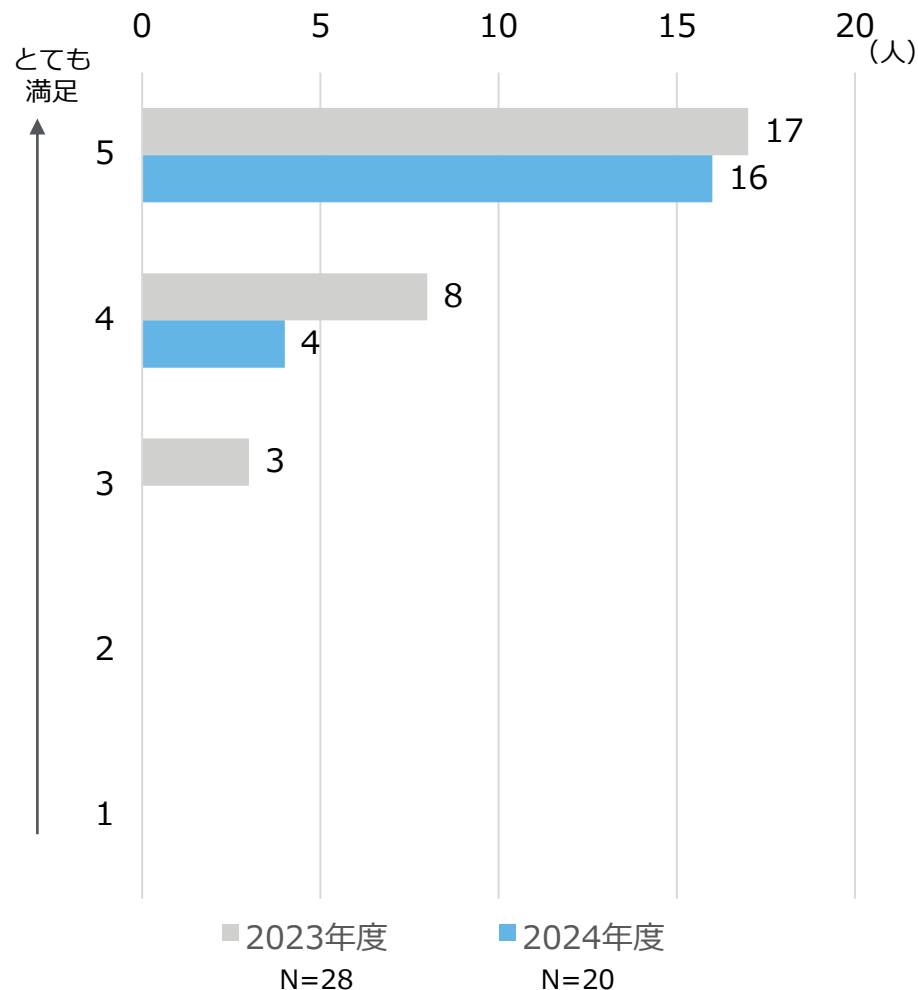
FDプログラムの参加目的について（複数回答）



FDプログラム満足度

✓ 全員が満足していると回答し、2023年度よりも高い満足度を得ることができた

プログラムの満足度について



左記満足度を選んだ理由（まとめ）

満足度4-5

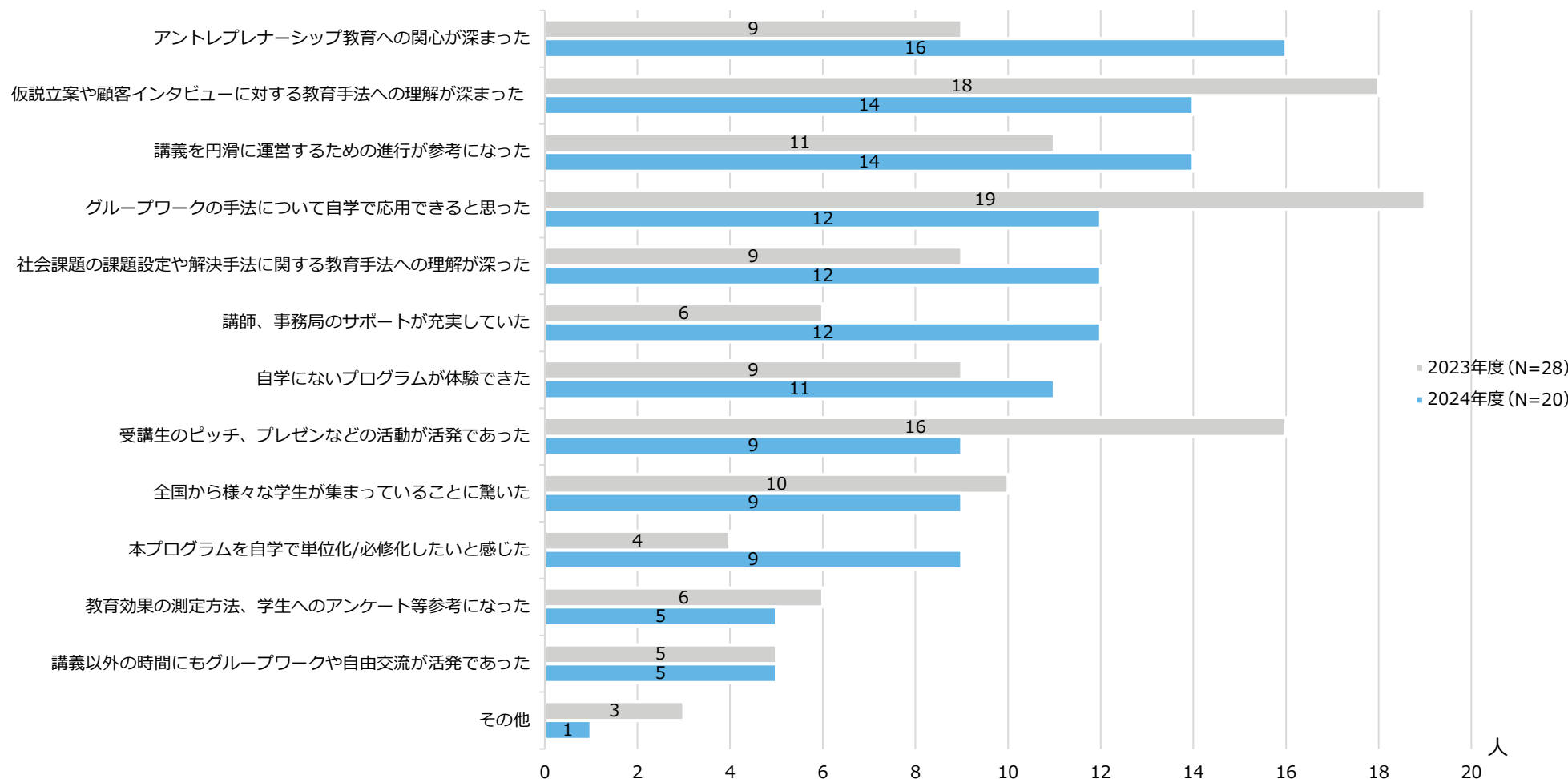
新たな学び

- ・ アントレ教育の展開に、プログラムデザインが参考になったため
- ・ アントレ教育に関する理解が深まったため
- ・ アントレ教育の展開に、教育手法が参考になったため
- ・ アントレ教育の展開に、同じ課題感を持つ教職員と交流できたため
- ・ 交流会では他の参加者と会話を深めたため

FDプログラムを通じて良かった点

- ✓ アントレプレナーシップ教育への関心が深まったが最も多く、次いで仮説立案や顧客インタビューに対する教育手法への理解が深まった、講義を円滑に運営するための進行が参考になったと回答していた

プログラムを通じて良かった点について（複数回答）



自学でアントレ教育実施に向けた必要な支援

✓ ノウハウ、コンテンツ、教職員間の連携についてコメントが見られた

自学でアントレ教育を実施する際に求める支援について

ノウハウの提供

- 外部専門家の関与や助言・相談
- アントレ教育に関する先行研究事例の提供
- 基本的な運営のための事務局機能（講義環境の準備、アナウンス、出欠確認等）
- 効果的なITツールの活用事例・方法（グループワーク、質疑応答、宿題提出等）

教育コンテンツの提供

- 豊富な講義関連コンテンツ
- 教育効果測定やアンケートの設計
- 受講生と協働でグループワークに取り組む機会
- 受講生へのメンタリングやオフィスアワーの設置

教職員間の連携

- 教職員間の意見交流の場の設置
- FDプログラム等の学びの機会の設置

FDプログラム参加者の反応

- ✓ 常に教員同士が常に情報交換やディスカッションを行っている状況であり、さらなるノウハウやコンテンツの情報提供、連携を求める声が多く上がっていた

2日間のFDプログラムの流れと参加者の反応

	プログラム	参加者の反応
2/1	・ 自学で取り組んでいるアントレ教育の共有 ・ 興味のある取組にシールを貼り情報共有	・ 「問いを立てるワーク」「なぜなぜワーク」「うそつき会」等きっかけづくりとなるようなキャッチ-な取組について話を聞いてみたいという声が多く、第3層にアプローチをする方法を模索している先生が多い印象
	・ インタビューの見学	・ 実際にインタビューを受ける側となってみて気づいたこと等もリアルタイムの質疑応答ウェブツールで共有や注意点の共有が多くでていた
	・ 疑問/仮説リストをAIを使って検証するデモ ・ MVPを作る際のAI活用について	・ 生成AIの活用することで、効率化できる部分とまた鵜呑みにしてはいけないポイント等をデモを通して自身が体感することで取り入れ方を具体的にイメージされている様子であった ・ MVPを作る際にAIを活用する事例が特に注目を集めていた(Webインターフェース等)
2/2	・ EntreCompについて	・ テクニカルな技術を反映したものではなく、行動・態度を反映したものであるというディスカッションや、年齢が上がる＝コアスキルが高まるでは必ずしもないこと等APUの牧野先生も交えて意見交換の場となった
	・ 跡部先生、小林先生から馬田先生のプログラムをどのようにアレンジしたかの事例共有	・ 生徒の属性や、レベル感に合わせてアレンジしている具体例を聞ける場が有難く、事例をもっと共有してほしいという声があった
	・ EntreCompと現在実施しているコースの対応表作成 ・ ブラッシュアップのできる要素の追加	・ EntreCompに当てはめることで、実施できていることと足りない要素の整理ができ、共有の時間での議論が活発であった ・ AI活用のアイデアが取り入れられていた
	・ 正課/正課外と授業にかける時間軸でグループ変え ・ 今度どういう支援やリソースがほしいか、アクションプラン等をディスカッション	・ 大学の枠を超えて一緒に実施していこうという動きや、地域でFDをやりたいという声、情報連携を強めるためにLINEグループを作りたいという声等が多くあった

全国プログラム 特別講演

特別講演の概要

- ✓ 2024年11月16日にオンラインでバブソン大学の山川先生による特別講演を実施した
- ✓ 当初1000名定員の設定だったが、即時満枠となったため、予定を変更で大幅増席し定員2000名とした

名称	全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム ー特別講演 「Failure is Good! アントレプレナーシップ × 失敗学」
事業背景・目的	今、社会は急激なスピードで変化しています。文部科学省では、社会課題を自分事として捉え、失敗を恐れず、新たな価値やビジョンを創造できる学生が全国に広がるよう、アントレプレナーシップ教育を推進しています。アントレプレナーシップは、起業意思の有無に関わらず、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力であり、すべての人が身につけるべき資質であると考えています。
募集対象	全国の大学生・大学院生・高等専門学校生等 最大2000名（1000名即時定員になったため、予定変更し大幅増席）
開催形式	オンライン
受講料金	無料
その他	教職員、民間企業・団体も参加可能
公式HP	https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/

プログラム概要

2024年
11月16日
9:30~11:30

失敗を恐れず、挑戦を楽しんでみよう。アントレプレナーシップ教育全米No.1バブソン大学で教える起業家的思考と行動法則の本質には『失敗はあたりまえ』という考えがある。その意味を共に考え、理解を深め、行動に変換していこう！

講師：バブソン大学 山川 恭弘先生

WEBサイト

The image shows two promotional materials. The top one is a poster for the 'Program' titled '特別講演「Failure is Good! アントレプレナーシップ × 失敗学」' (Special Lecture 'Failure is Good! Entrepreneurship x Failure Studies'). It features illustrations of people working on lightbulbs and gears. The bottom one is a banner for the application, titled '特別講演「Failure is Good! アントレプレナーシップと失敗学」' (Special Lecture 'Failure is Good! Entrepreneurship and Failure Studies') by 山川 恭弘 (Yamaoka Takahiro), a guest professor at Babson University. It includes a photo of Mr. Yamaoka and a yellow circle saying 'オンラインにて開催!' (Held online!).

全国プログラム・特別講演
Program

特別講演「Failure is Good! アントレプレナーシップ × 失敗学」
開催レポートはこちら

11/16（土）9:30~11:30
文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム
特別講演「Failure is Good! アントレプレナーシップ × 失敗学」
失敗を恐れず、挑戦を楽しんでみよう。アントレプレナーシップ「失敗はあたりまえ」という考えがある。その意味を共に考え、

Application Starts!
特別講演「Failure is Good! アントレプレナーシップと失敗学」
山川 恭弘（やまかわ やすひろ）
バブソン大学 アントレプレナーシップ准教授
オンラインにて開催!
失敗を恐れず、挑戦を楽しんでみよう。アントレプレナーシップ教育全米 No.1 バブソン大学で教える起業家的思考と行動法則の本質には『失敗はあたりまえ』という考えがある。その意味を共に考え、理解を深め、行動に変換していこう！

2024年度取組の主な成果

- ✓ 申込者は1318名が集まった
- ✓ 参加率53.3%と低い結果となったが、満足度はどの属性も高い結果となった

2024年度取組の主な成果

		申込人数	満足度
2024年度		1318名 (参加人数691名)	93%
内訳	学生	583名	88%
	教職員	551名	95%
	民間企業等	184名	97%

比率は、小数点以降四捨五入

*参加者数は〈参加者数=（ウェビナー入室延べ人数）-（グループワーク前後の重複人数）-（滞在時間10分以下の人数）-（関係者の人数）〉で算出

特別講演の開催報告

- ✓ オンライン講義にてグループワークを企画し、参加者同士で「幼いころの失敗談」について話し合う形とした

Breakout!

**Go back to your childhood memories... what did you fail at?
Did you learn anything? What would you say to yourself back
then?**

お題：幼いころの失敗談のお披露目

- （１）本人による語り（２分以内）
- （２）周りからのフィードバック『よかったね！〇〇〇だから（学び？）』（２分程度）
- （３）本人から当時の自分に一言！
- （４）次の人へ

イベントレポート

- ✓ 講義の様子をイベントレポートとして、HPにて配信した

< 講義内容抜粋 >

○Are you ready to change the world?



「世界を変えるぞ、準備はいいか？」

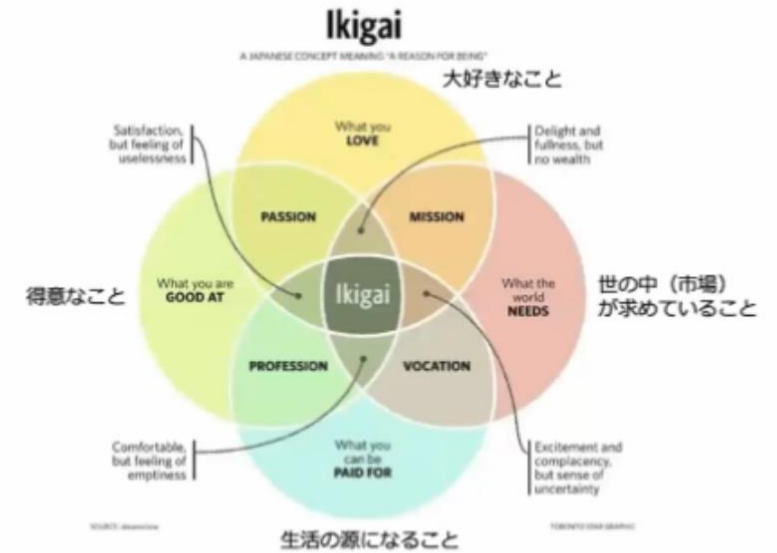
これは起業家がよく使うフレーズです。しかし、起業家だけではなく、皆様にも自分事として考えていただきたいフレーズでもあります。学生であっても、先生であっても、どんな職種であっても「自分はどう世界をよりよくできるのか」、これを強く意識していただきたいです。そもそも、皆さんは世界の出来事に興味を持っているでしょうか。世界は戦争や貧困、移民といった問題で溢れています。皆さんはこういった問題に共感できていますか。あるいは当事者意識を持って、不平や不満を言うのではなく解決側に立っていますか。

○あなたの生きがいは何ですか？

自らの生きがいを理解することがアントレプレナーシップを育むために大切です。

生きがいは「大好きなこと」「得意なこと」「生活の源になること」「世の中が求めていること」の4つが交差するところ。生きがいについて尋ねるとき、バブソン大学では“Who are you? What is your desire? 「あなたはどんな人間なのか？あなたの欲望はなにか？」と問います。欲望には「〇〇な世界を作りたい！」という意思や社会へ与えたいインパクト、そして次世代に受け継ぎたいものなどが含まれます。バブソン大学ではこの問いから『起業道』がスタートします。

あなたの『生きがい』は何ですか？



何がしたいのか？なぜやりたいのか？なぜあなたなのか？なぜ今なのか？

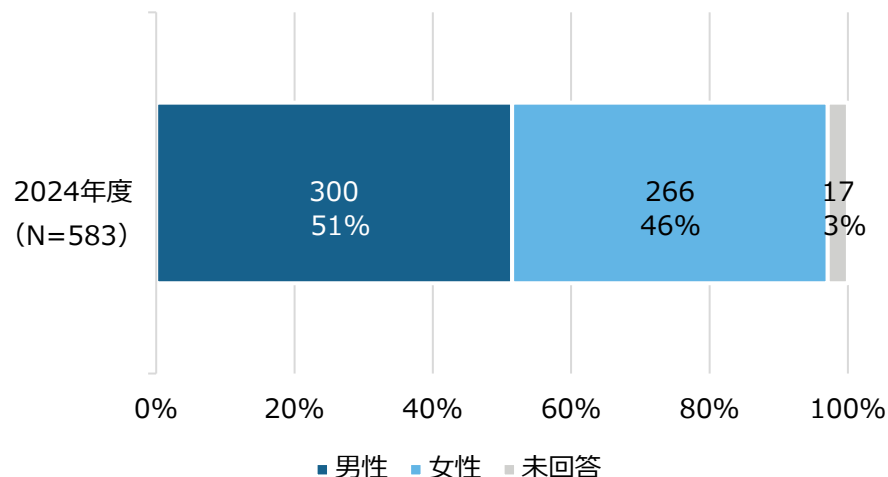
Babson: Who are you? What is your desire?

欲望：〇〇な世界をつくりたい！（意志、インパクト、次世代に受け継がせたいもの）

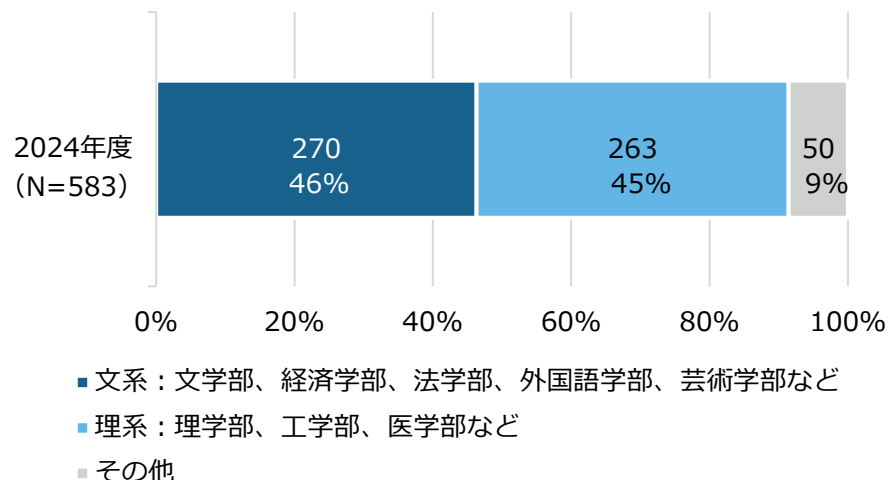
申込者の情報（学生）

- ✓ 学生は583名もの申込者が集まり、男女・文理であまり偏りなく、均等のバランスで申込があった
- ✓ 東京、九州・沖縄、その他関東エリアからの申込が多く、海外からの申込も一定見られた

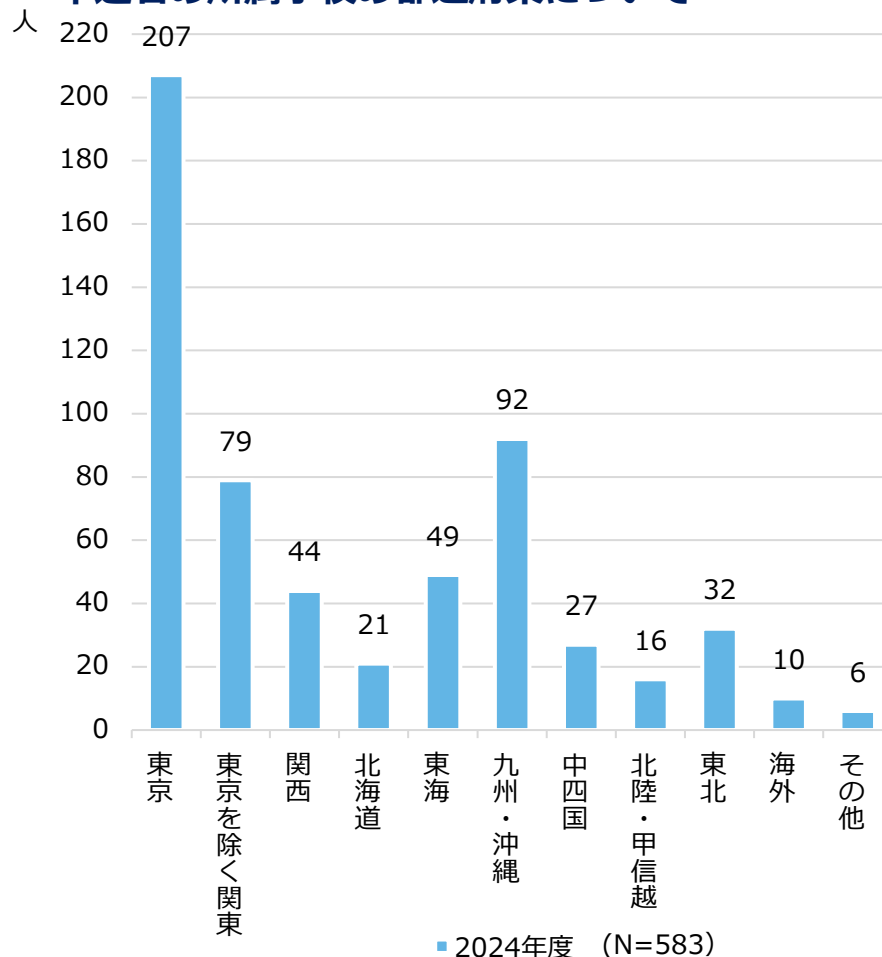
申込者の性別について



申込者の学問の系統について



申込者の所属学校の都道府県について



※東海：静岡県・愛知県・岐阜県・三重県／

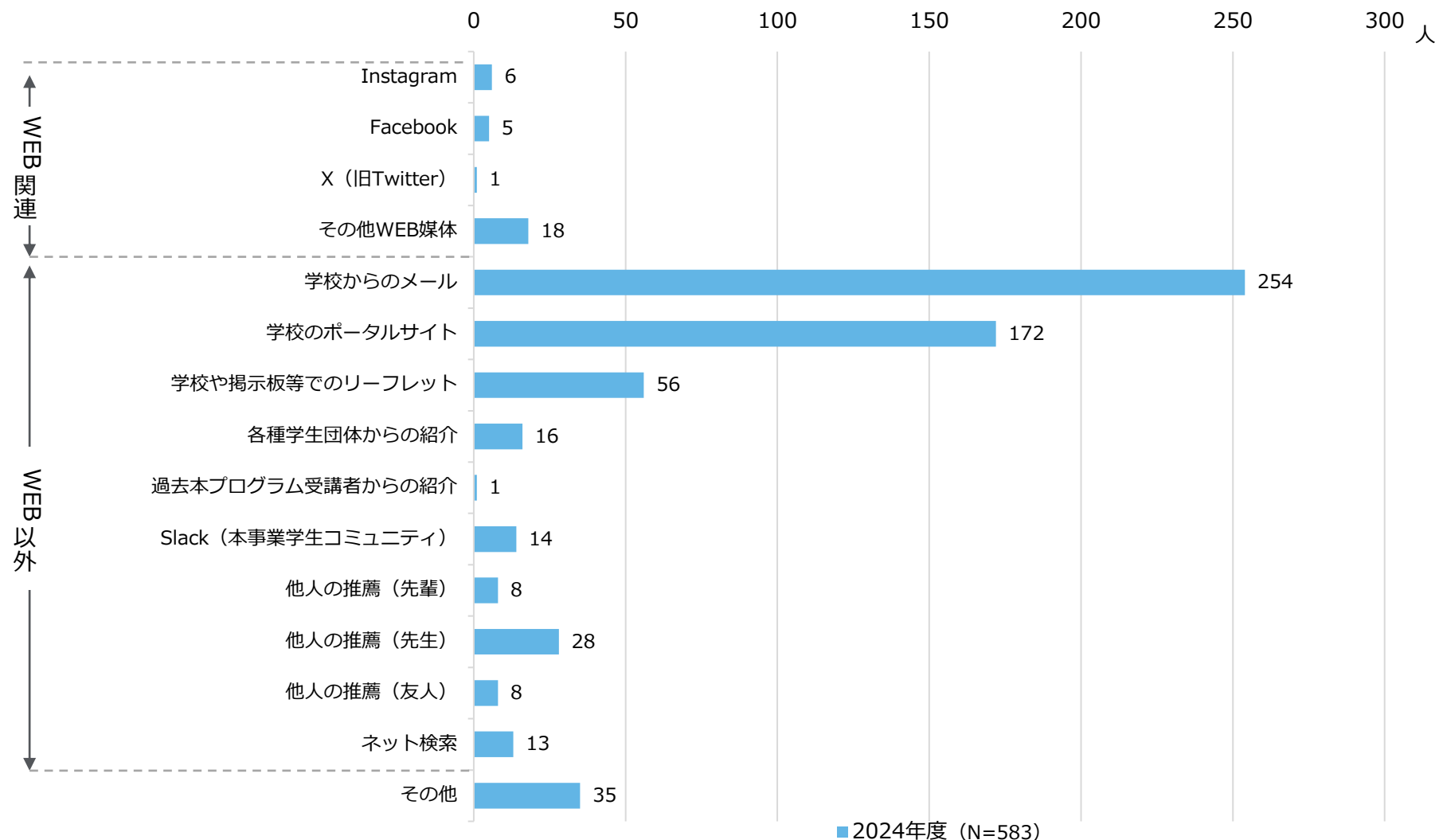
北陸・甲信越：山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県／

関西：大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・和歌山県・滋賀県

申込者のプログラム認知方法（学生）

✓ 主な認知機会は学校媒体であるものの、普段の大学生活での活動や関わりを通しての認知も広まっている

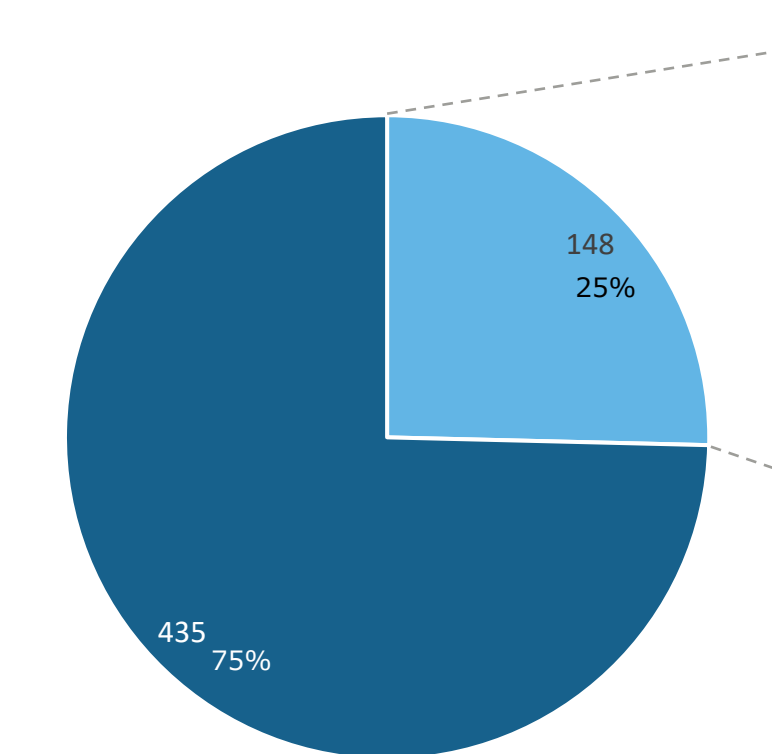
申込者が当プログラムを知ったきっかけについて（複数選択）



全国プログラムの参加者アントレ教育受講歴（学生）

- ✓ 申込者の75%がアントレ教育を受講したことがない学生であり、「アントレプレナーシップ教育」の認知度の向上や、第3層へのアプローチに成功している。受講歴のある学生は学校の授業や外部イベントでの受講が多く見られた

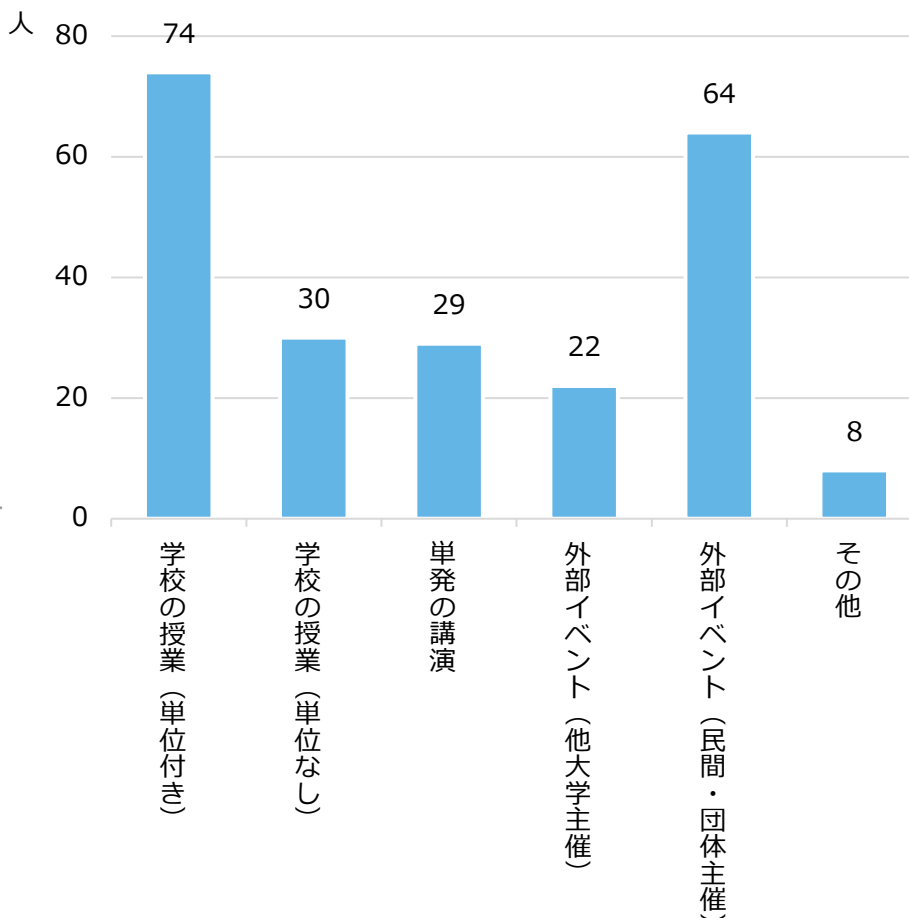
申込者のアントレ教育の受講経験の有無について



- アントレプレナーシップ教育を受講したことがある
- アントレプレナーシップ教育を受講したことがない

(N=583)

アントレ教育受講歴の種類について



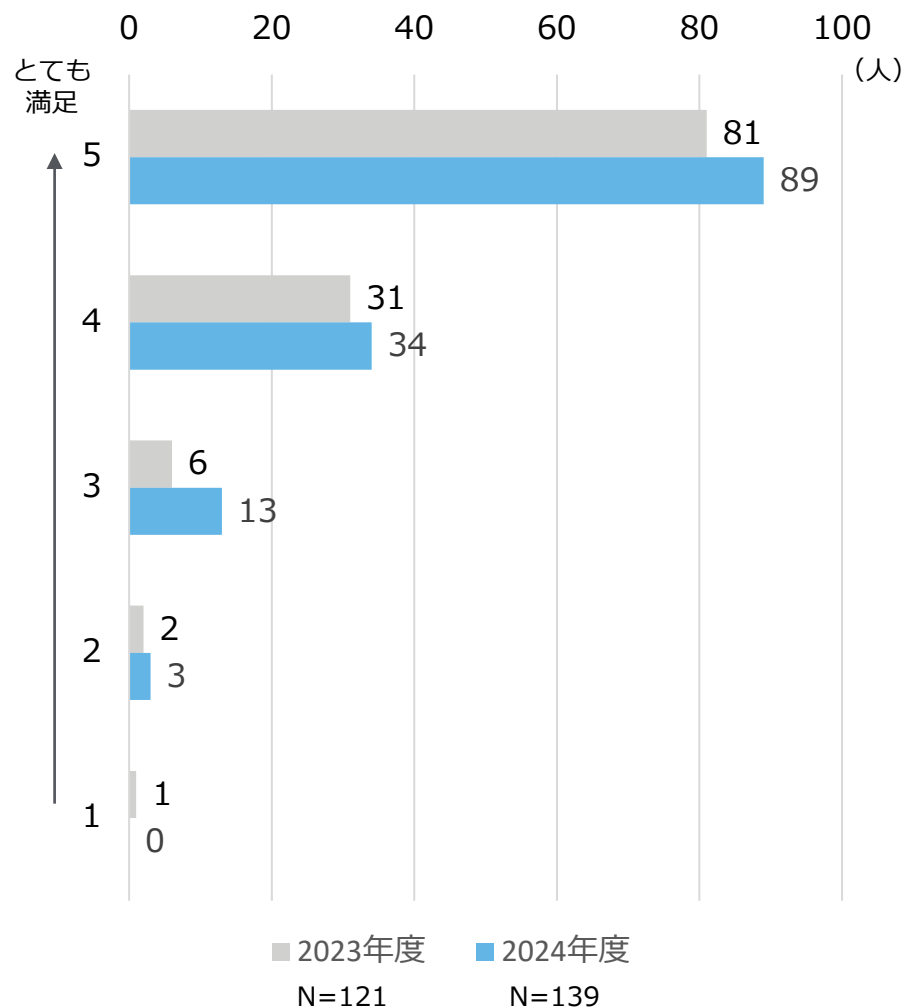
■ 2024年度

(N=583)

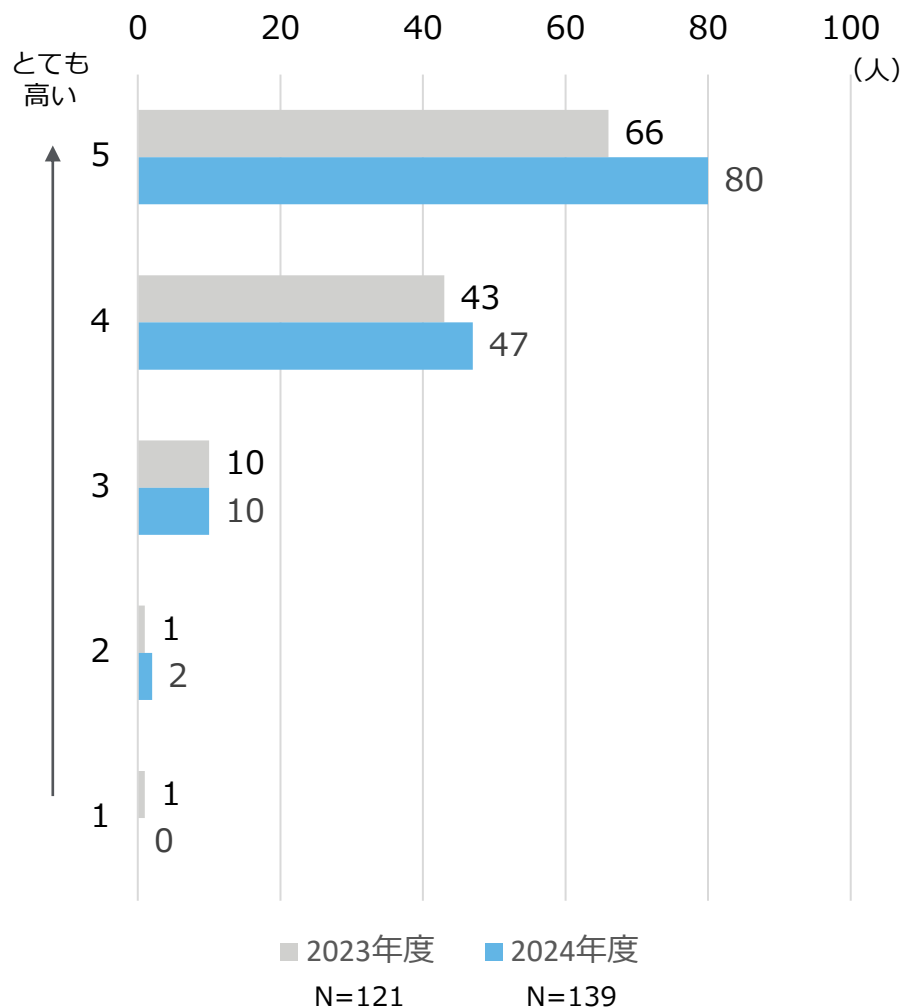
プログラム満足度（学生）

✓ 2023年度と同様に全体の80%以上が満足をしている傾向にあり、再参加意向度は2023年度よりも高い結果となった

プログラムの満足度について



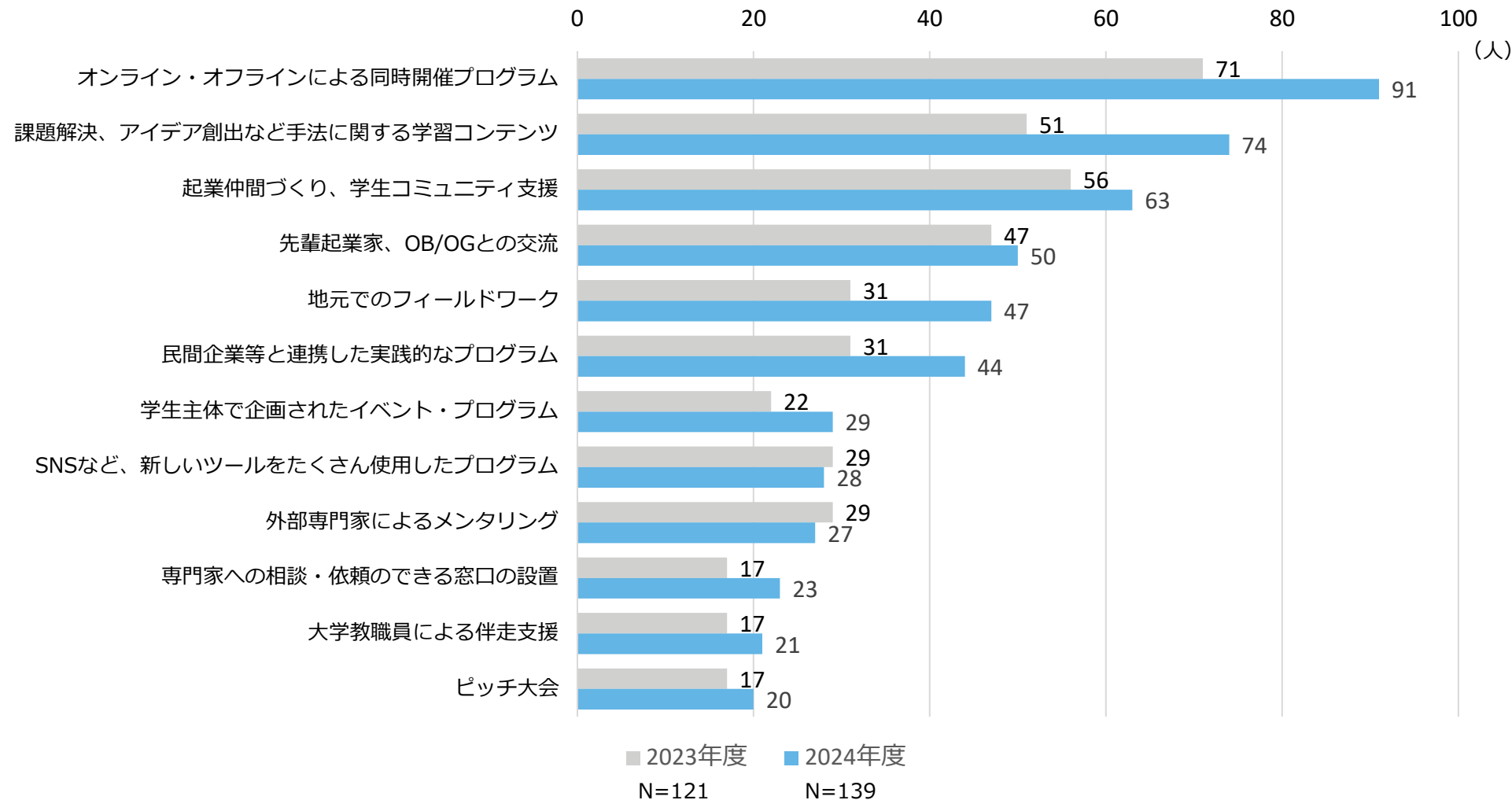
再参加意向度



望ましいプログラムの内容・形式（学生）

- ✓ 開催形式としては、オンライン・オフラインによるハイブリッド開催を希望する回答が多かった
- ✓ 2024年度のプログラム内容にグループワークを加えたこともあり、課題解決手法等に関する学習コンテンツへの回答が2023年度よりも高まった傾向になった

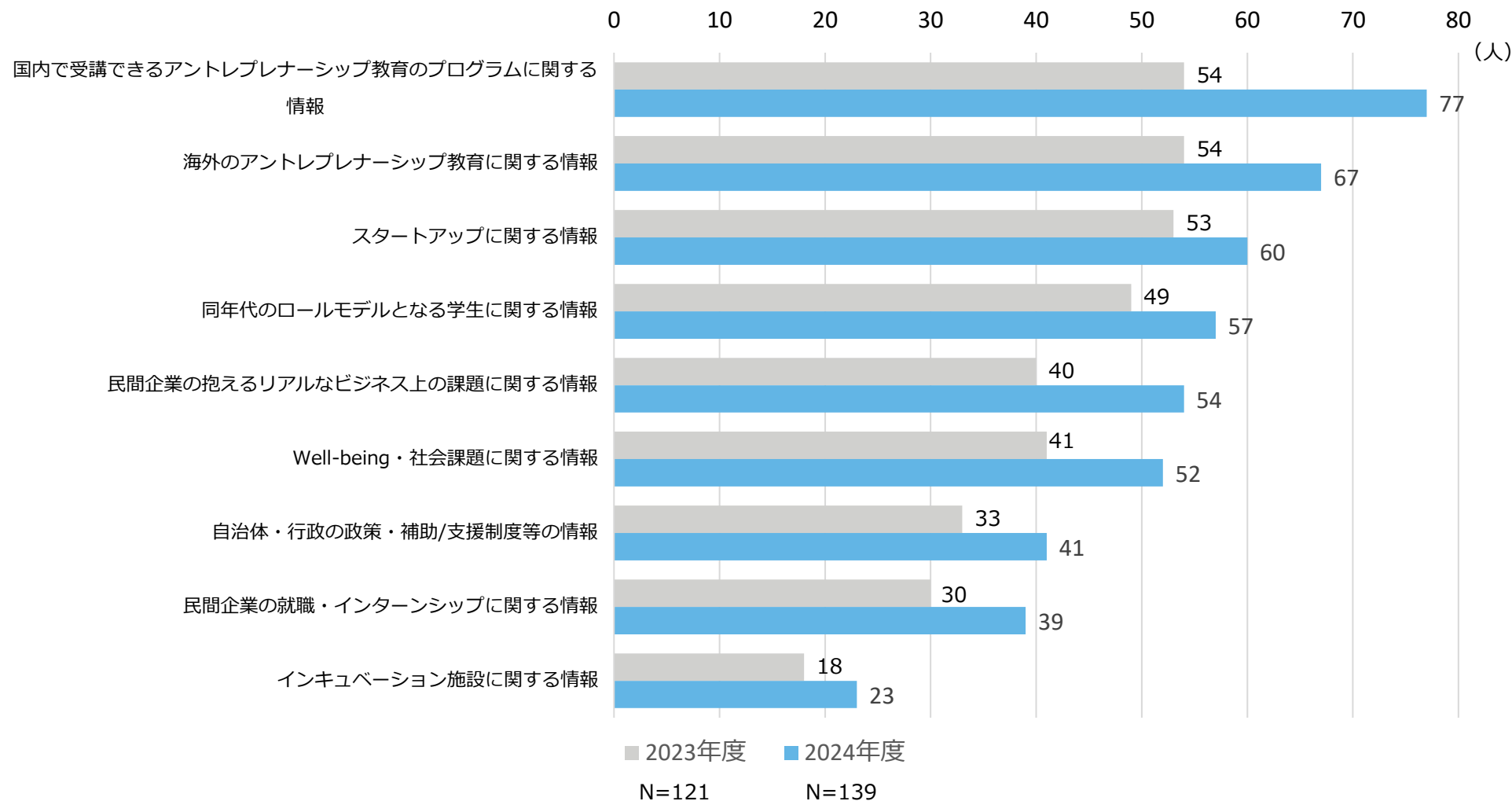
望ましいプログラムの内容・形式



情報提供を求めるもの（学生）

- ✓ 国内で受講できるアントレプレナーシップ教育のプログラムに関する情報を求める学生が大半を占めていた
- ✓ 次いで、海外のアントレ教育の情報、スタートアップの情報、同年代のロールモデルとなる学生の情報を求めている

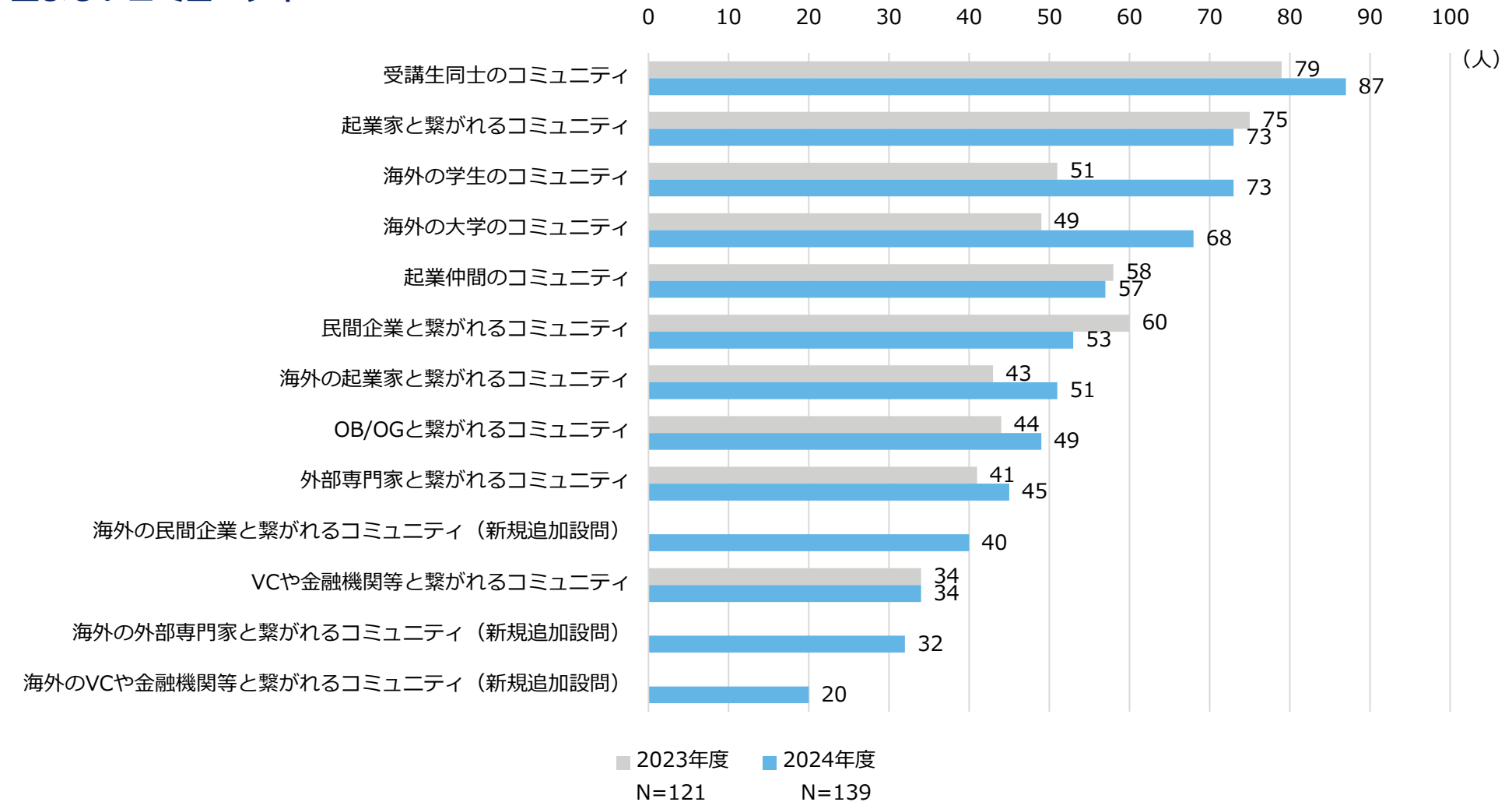
受講後の学びを活用するための情報提供



望ましいコミュニティ（学生）

- ✓ 受講生同士のコミュニティや起業家とつながることのできるコミュニティへの回答が多かった
- ✓ 山川先生よりバブソン大学の学生の学習活動をご共有いただいたことから海外の学生のコミュニティとの繋がりに関心を持つ学生も2023年度に比べて多かった

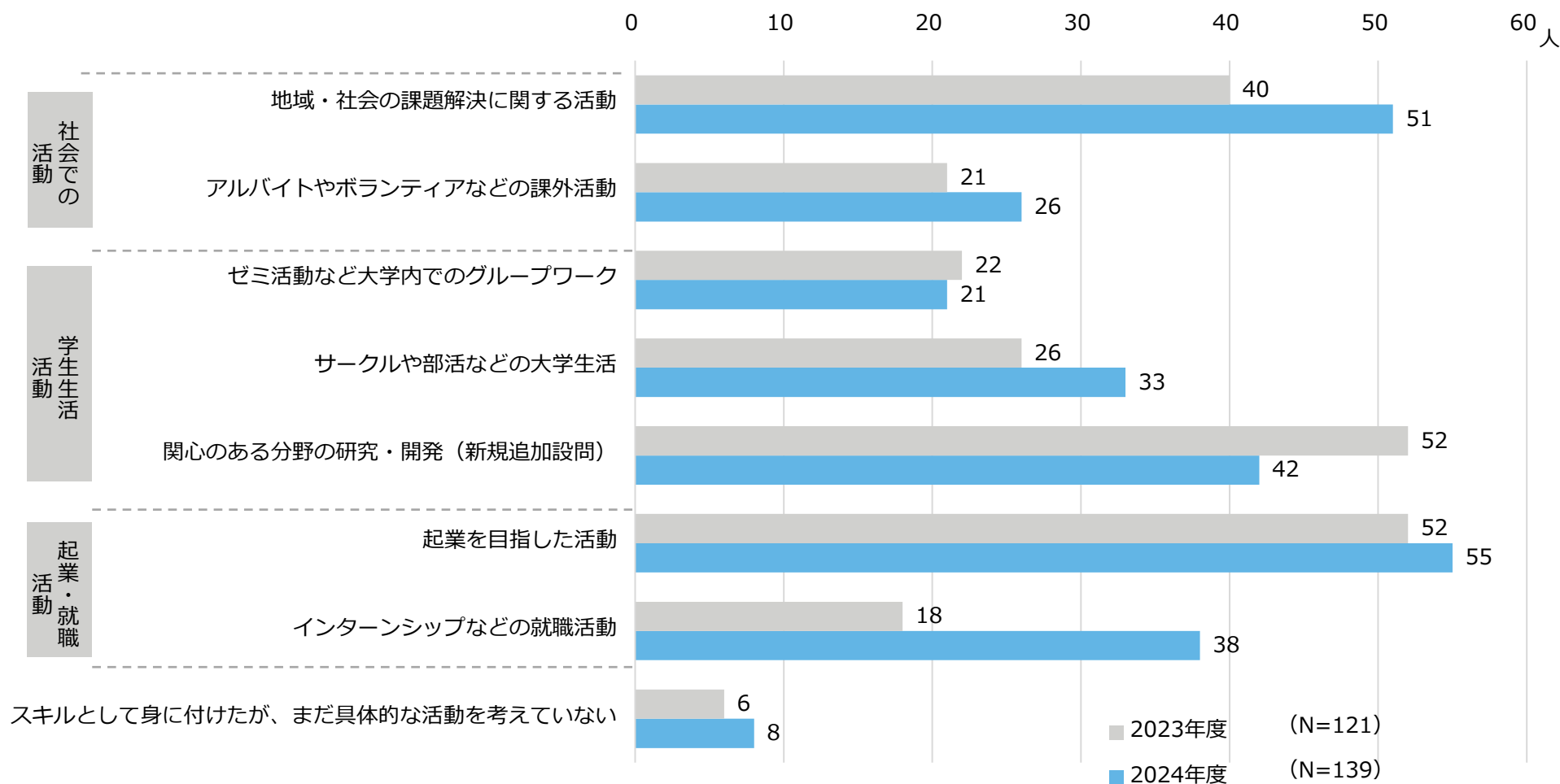
望ましいコミュニティ



今後取り組みたい活動について（学生）

- ✓ 起業を目指した活動が2023年度に引き続き最も回答が多かったが、地域・社会の課題解決に関する活動やインターンシップなどの就職活動などは2023年度よりも大幅にスコアを伸ばしている

今後取り組みたい活動について



特別講演の参加者の声（学生）

- ✓ オンライン形式が参加ハードルを下げ、多くの学生に貴重な機会を提供したとの評価が目立った
- ✓ これらの声から、アーカイブの活用やさらなる実践型プログラムの設計が有効であると考えられる

マインドチェンジ （主に行動欲） に関するコメント

- ・ 進んで挑戦しようと思えた
- ・ オフラインで積極的に行動できるイベントを増やして欲しいです
- ・ 山川先生の話がとてもタメになりました。時間や環境に囚われず、チャレンジしていきたいと思いました。
- ・ 本当にいい授業を受けることができました。行動を積極的に行っていこうと思いました。
- ・ 今回の学びを実生活に取り入れるとともに、さらに先生の著書や論文を読むなどして学びを深めていきたいです。
- ・ 今回初めてウェビナーを受講させていただいて、聞いていてとても興味深く、今後の自分の活動にいかせそうなことがたくさんみつかりました。このような場を設けていただきありがとうございました。
- ・ アントレ教育に興味を持つ機会となりました。これからは積極的に情報にアクセスして、行動にうつしていきたいと思います。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 現在就活中で、私はどんな人間なのか、何がしたいのかなどをよく考えています。今回ご講演を拝聴し、私は周りの大人からの評価を気にして、失敗をしないように、優等生であろうと生きてきたことを実感したので、これから私がどう生きるのか、行動を変えるきっかけとなる機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 今回の講義で学んだことをそんなこともあるんだと受け流して考えるのではなく、今後実践していく中で使える形で行動していきたい。

周囲にも共有したい というコメント

- ・ すごく面白かったです。ぜひ講義を受けたいと思ったので、留学先の候補として考えようかと思います。是非対面で講義が聞きたいため、私の所属する千葉大学にも講演に来て欲しいと思いました。ぜひ千葉大学の学生のみんなや、教授方にも共有したいと思いました。今日は本当にありがとうございました！
- ・ 参加してみて非常に良かったと感じています。同じ学生の方だけでなく、教職員の方や企業の方とも交流ができて、自信に繋がりました。このようなプログラムを運営していただき、誠にありがとうございました。将来またこのような機会がありましたら、次は周りの方におすすめしたいと思います。

次回も参加したい というコメント

- ・ 山川先生、文部科学省およびデロイトトーマツグループのご担当者様、関係者の皆様、このような貴重な機会を誠にありがとうございます。また、同様の機会があればぜひとも参加したいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 次もしやっくださる機会がありましたら捉え方、考え方として日常生活での具体的な範囲でご教示頂けたら幸いです。今回は本当にありがとうございました。

運営に対する コメント

- ・ 学生であり、民間であり、大学職員でもあるので、複数のアイデンティをもつ人もいる事を知って欲しい。
- ・ スライドが分かりやすく、面白い講義だった。次回は英語での講義も開催してほしい。
- ・ 文科省がアントレプレナーシップをそんなに支援しているとは知らなかったので驚きました。
- ・ オンライン開催だったので参加のハードルが低く、大変貴重なお話を聞くことができ、感謝しています。

参考：特別講演の参加者の声（教職員）

- ✓ プログラム内容を教育現場に応用したいという声が多く寄せられ、教育現場での実践に向けたさらなる具体性の追求が求められている

マインドチェンジ （主に行動欲） に関するコメント

- ・ 講義内容は今まで自分の頭の中で知識としてあったものを、改めて講義して頂いたことで、考えているだけではなく、実践をしてみようと気持ちがポジティブになりました。ありがとうございました。
- ・ 今後は、山川先生の書籍や、文科省HP等を参考にどんどん取り入れていきます。本講演に参加させて頂き、たくさんの方が参考になりました。
- ・ 今回はじめて「失敗学」というキャッチコピーに惹かれて参加しましたが、とても収穫の多い講演会でした。「起業家精神」という言葉からくる誤解に気づくことができ、アントレプレナーシップとその重要性について深く理解できました。本日のご講演内容のとおり、まずやってみることが非常に大事でした。ありがとうございました。
- ・ 大変有意義な時間でした。失敗を恐れないことが教員も学生も大事だと再認識しました。
- ・ 教職員も子供が失敗することを恐れずに教育していけるといい。わたしもっと学びたいと思った。
- ・ ビジネスプランのピッチとフィードバックまでに留まっており、もう一歩が踏み出せずにいます。ステークホルダと議論を深めて具体的な制度設計を検討したいと思いました。

学生や教員に 共有したい というコメント

- ・ 人生の捉え方が変わるほど実りある時間でした。この時間を学生に味わってほしいと感じました。
- ・ かなり刺激になりました。満足度は非常に高いです。学生にも観せたいので、録画配信があるとありがたいです。
- ・ とても励まされる内容で、朝から元気をいただきました。モヤモヤする前に、まずは1歩踏み出す行動を起こし、自分の強みにしていきたいと思いました。ぜひ、山川さんのお話を岡山でも広めていきたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 今後の教員研修に大変参考になりました

次回に期待する 内容へのコメント

- ・ 高校の単元で実施する場合のどの部分を行うのが適切か知りたい
- ・ 非営利団体などの立ち上げについても触れてほしい
- ・ アントレプレナーシップ教育の高校生への指導手法について次回はもう少し掘り下げて欲しい
- ・ こういうプログラムを継続して欲しい。
- ・ 非常に有意義な講演でした。継続的かつ身近に教職員が学べる機会があると嬉しいです。
- ・ 毎年あれば学生に受講を促しやすいです
- ・ 大学において、カリキュラムに導入する場合、どのような準備が必要かなど専門知識を教えてください

運営に対する コメント

- ・ アーカイブを視聴することが可能なのであれば、改めて勉強したいと思います。
- ・ 学生とは別に、教職員を対象に、授業内容について詳しく説明いただける機会があれば嬉しく思います。
- ・ リマインドメールを複数回丁寧に送ってください、大変助かりました。タイムマネージメント等当日のご対応や進行もお疲れ様でした。
- ・ 地方に住む者にとってオンライン配信は助かりました。アーカイブも期待しております。

参考：特別講演の参加者の声（民間企業等）

- ✓ ビジネスの現場にいる民間参加者からは、山川先生講義に対する共感が多く寄せられ、自身の経験をもとにアントレプレナーシップ教育に関与していく可能性が示唆される

マインドチェンジ （主に行動欲） に関するコメント

- ・ 今、愛媛県今治市で90年続く後継者のいないタオル工場を第3者承継にて引継いで、タオルを作っております。会社を経営する中で課題として起こってくるのが、アントレプレナーシップ教育によって変化を起こせることなのではないかと思い、今回参加をさせていただきました。私にはすごい経歴も、すごい実績ありません。それでも会社を経営する中で思うことは、従業員としては働いてくれる人たちの方が人数としてはるかに多いのであれば、今目の前に起こっている問題にfocusをしすぎるのが大事なのではなく、全体として日本が良くならなければ意味がないと感じています。どんな意見や考えにも、未来への光が含まれているとして話を聞くのが、起業家（経営者）だけではなく、男女も、立場も関係なくみんなが安心して自分の今いる場所からよりよくなるために意見をできるようにするために、社会全体でアントレプレナーシップを学ぶ必要があると感じています。決して、起業家として成功するためだけにこの教育があるわけではないと考えるなら、きっと文部科学省として取り組みたいと思われることは小学校から高校生にかけての人間力としての基盤づくり、そして実際には大学から社会人にかけての発射できる力としてのアントレプレナーシップではないかと思っています。だからこと、何ものでもない私ができることがあるならチャレンジしたいと思っています。安定を求めて教師になった新卒を越えてなお、失敗ばかりの中で歩む人生です。どんなチャレンジの可能性があるかはわかりませんが、この機会に思いを語らせていただけたらと思い記させていただきました。本当に素晴らしいきっかけをありがとうございます。

次回に期待する 内容へのコメント

- ・ 素晴らしい企画です。多くのハブができることを期待しています。
- ・ お恥ずかしながら今回はじめて山川先生を知り、共感度が高く参加させていただきましたが、非常にマッチ・今後に生きる時間となりました。今後も同様な取り組みがありましたら積極的に参加させていただきたいです。山川先生はもちろんのこと、運営・ご関係のみなさま、本当にありがとうございました。
- ・ このような企画をしてくださり、ありがとうございます。中高生の若者にこそ、このような考え方、人生の捉え方をしてもらいたいと思いました。また、中高生の親にこそ、起業以下マインドを大切にしてもらいたいなと思いました。

運営に対する コメント

- ・ 運営の皆様、山川先生、ご準備・ご講演いただきありがとうございました。参加者からのQA時間を長めにいただけると幸いです。ありがとうございました

全国プログラム プロモーション

広報物リーフレット

- ✓ 全国プログラム、特別講演について、リーフレットを作成し、各所に配布・展開した

Application Starts!

特別講演「Failure is Good!」
アントレプレナーシップと失敗学

山川 恭弘 (やまかわ やすひろ)
バブソン大学 アントレプレナーシップ准教授

オンラインにて開催!

失敗を恐れず、挑戦を楽しんでみよう。アントレプレナーシップ教育全米 No.1 バブソン大学で教える起業家の思考と行動法。則の本質には「失敗はあたりまえ」という考えがある。その意味を共に考え、理解を深め、行動に変換していこう!

実施時期 **11月16日(土) 9:30-11:30**

オンライン開催 学生向け(教職員・民間の方も参加可)

-講師-

山川 恭弘 (やまかわ やすひろ)

起業家教育31年連続全米No.1であり、トヨタ自動車の豊田章男前社長、スパークスの阿部修平社長、イオンの岡田元也会長などを輩出したバブソン大学で、准教授として起業家と経営戦略、国際ビジネスの分野で教授をとる。国内では、アントレプレナーシップの第一人者として東京大学特任教授をはじめとした数々の大学で教授をとる。その他、ベンチャーカフェ東京共同創設・顧問、経済産業省Jスタートアップ推薦委員、文部科学省起業教育有識者委員会メンバー、US-Japan Council Memberなどを務める。

プログラム詳細

■山川先生による講演
講演テーマ「Failure is Good!」
アントレプレナーシップと失敗学
■質疑応答

オンライン先着1,000名
ZoomのURLは申込後事務局より送付
申込期限：定員になり次第終了

申込方法

QRコードより
お申込みください

教職員
民間用



学生用



自分の **未来** は自分でつくる



文部科学省 主催

**2024年度全国アントレプレナーシップ
人材育成プログラム開催!**

開催日:2025年2月1日(土) 2日(日)

場所:Tokyo Innovation Base

-プログラム概要-

本プログラムでは、社会課題の解決やビジネスでの起業等、新しい事を起こす際に役立つアントレプレナーシップを体感していただきます。多様な方々とのグループワークを通じ、自己認識を深化させ、自分のアイデンティティを探索し、また他者評価を通して自己認識・行動様式を改めるためのヒントが得られます。普段の学校生活と違う環境で、自分のアイデンティティやマインド、自分の価値を再発見する機会にもなります。

-プログラムの主な内容-

グループワークを中心に課題を解決するための必要なスキルと行動法を実践を通して学びます。

- ・事業化アイデアの選択
- ・顧客インタビューを通じた検証
- ・MVP (Minimum Viable Product) の開発
- ・セールスの準備及び実施
- ・ピッチ準備及びピッチ
- ・チームでの振り返り など

-プログラムの期待効果-

何か新しいことを始めるときに
役立つ基礎的な手法を
一連の流れに沿って経験



-その他詳細-

- ◆募集人数：200名 ◆形式：対面開催
- ◆受講費用：無料 ※会場までの交通費・宿泊費各自負担
- ◆応募条件：対象全国の大学生・大学院生
高等専門学校生（高校生も若干名参加可能）

プログラム受講者の声



昨年度実施レポート



申込はQRから

学生用



FDプログラム用



見学教職員用



見学民間用



文部科学省 主催
デロイトトーマツ グループ協賛

—全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム—

文部科学省



全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム運営事務局
問い合わせ entrepreneurship_education@tohmatu.co.jp

広報活動による告知掲載場所（抜粋）

- ✓ 文部科学省のプレスリリース（新着情報）、事務局からの各メディアへの広報活用等の成果として、以下各種WEBメディアを中心に告知掲載を獲得した



広報活動による告知掲載場所（抜粋）

- ✓ 文部科学省のプレスリリース（新着情報）、事務局からの各メディアへの広報活用等の成果として、以下各種WEBメディアを中心に告知掲載を獲得した



二次掲載



Yahoo!ニュース



コメディア



Qulii (キュリー)



広報活動による告知掲載場所（抜粋）

- ✓ 文部科学省のプレスリリース（新着情報）、事務局からの各メディアへの広報活用等の成果として、以下各種WEBメディアを中心に告知掲載を獲得した

現代ビジネス



2025.01.27 #起業家 #ビジネス

「バブソン大学」世界一のアントレプレナーシップを支える「3つの原則」

「生きがい」と「共感」が日本を変える



山川 恭弘

Googleはこの広告の表示を停止しました

起業家精神——アントレプレナーシップの重要性は語りつくされているが、文部科学省もこの分野を注視し、さまざまな支援活動を行っている。その一環として開催されたのが2024年11月16日に行われた、バブソン大学山川恭弘准教授の特別講演である。全米起業家教育31年連続一位の同大学はアメリカ北東部のボストン近郊にあり、日本人では豊田章男トヨタ自動車会長も卒業生に名を連ねる。全米のみならず世界から野心を抱いた若者が集まるこの大学で教鞭をとる山川氏が熱を込めてアントレプレナーの神髄を語った。

リセマム

ReseMoM

特別講演「Failure is Good！アントレ×失敗学」11/16...文科省

2024/10/25



文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム特別講演「Failure is Good! アントレプレナーシップ×失敗学」

文部科学省は2024年11月16日、2024年度（令和6年度）全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムにおいて特別講演「Failure is Good！アントレ×失敗学」をオンライン開催する。定員は最大1,000名、申込みはWebサイトより受け付ける。



関連記事



女子中学生向け「Girls Meet STEM」国際高寺12/8



お子さまのより良い未来のために「ReseMoM Editors' Choice 2024」発表



文科省共催「超福祉」の学校

イベント等による広報活動（抜粋）

- ✓ 協力企業・自治体と共にイベントに登壇し、本イベントについて広報を行った

東京都 アントレプレナーシップ育成プログラム事業（TiB Students）



学生・会社員・教員必見!

**アントレプレナーシップ教育
ギャザリングDAY**

~学校現場とスタートアップ・エコシステムをつなぐ、
皆で作るアントレプレナーシップ教育~

**2024年12月13日（金）
17:00-19:20（16:30受付開始）**
@Tokyo Innovation Base(TiB)

参加無料 途中参加・退出自由 服装自由

東京都 **TiB Students**

Blast School



各団体との連携による広報活動

- ✓ 各団体との連携関係を築き、広報を推進した



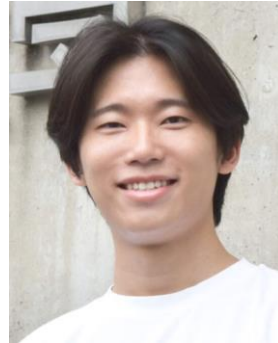
ロールモデル記事掲載による広報活動

- ✓ 受講生と境遇に近い身近なロールモデル取材し記事を掲載することで、学生たちの共感を引き出した

「私のアントレプレナーシップ」企画



株式会社リモハブ
代表取締役CEO
谷口 達典



株式会社SAZO
代表取締役CEO
ギル マロ



株式会社Booon
代表取締役CEO
橋爪 海



株式会社坪田ラボ
北村奈々



桜美林大学リベラルアーツ学群/
学生団体 Brailles代表
小汲 唯奈



株式会社 中特ホールディングス
CS営業部
京面 裕也

教材コンテンツ掲載による広報活動

- ✓ 東京大学、中小機構、UNDPと連携し、無料で閲覧できる教材コンテンツをHPに掲載し、広報を推進した



今すぐアントレを学ぶ
(学生向け)

Learning

Archive アントレプレナーシップ教育プログラムのリンク

国内のアントレプレナーシップ教育プログラムのリンクをこちらにまとめております。登録不要（無料）でどなたでも視聴できます。
「アントレプレナーシップを今すぐ学びたい」方は、ぜひチェックしてみてください。

アントレプレナーシップ関連講座（オンライン配信）

UTokyo_アントレプレナーシップ教育デザイン寄付講座



東京大学大学院工学系研究科で設置された、アントレプレナーシップ教育デザイン寄付講座の動画発信ページです。登録不要（無料）でどなたでも視聴できます。

「アントレプレナーシップを今すぐ学びたい」方は、ぜひチェックしてみてください。

詳しくはコチラ

中小機構 起業家教育事業



中小機構で実施している「起業家教育事業」に関連した動画を掲載しているページです。登録不要（無料）でどなたでも視聴できます。先輩起業家に創業に対する想いなどを聞いた「創業者ストーリー」や、出前授業、起業家教育事業交流会の様子がわかる動画がございます。

高等学校などの教育機関の方や、創業にご関心をお持ちの方はぜひご覧ください。

創業支援等事業計画機能強化事業の関連情報

Youth Co:Lab（ユース・コラボ） スプリングボード・プログラム



UNDPとシティ・ファウンデーション共催のYouth Co:Lab（ユース・コラボ）では、スプリングボード・プログラムページ（英語）という、起業家や起業志望者のための学習用プラットフォームがあり、どなたでも、様々なオンライン教材を無料でご利用いただくことができます。

スプリングボード・プログラムの日本語ページでは、社会事業の成長を支援する6つの教材を日本語で利用いただけます。社会起業に関心のおりの方からすでに起業された方まで、ぜひオンライン教材をご活用ください。

スプリングボード・プログラムページ（英語）

スプリングボード・プログラムページ（日本語）

Slackにおける情報発信

- ✓ 本事業を経由し申込をした学生・教職員向けにチャネルを作成し、事務局からの情報発信、プログラムに関する定期的なアナウンスを行った

Slackでの情報発信（一部紹介）

申込者数（2025年3月末）

- 学生：585名
- 教職員：284名

閲覧数の向上

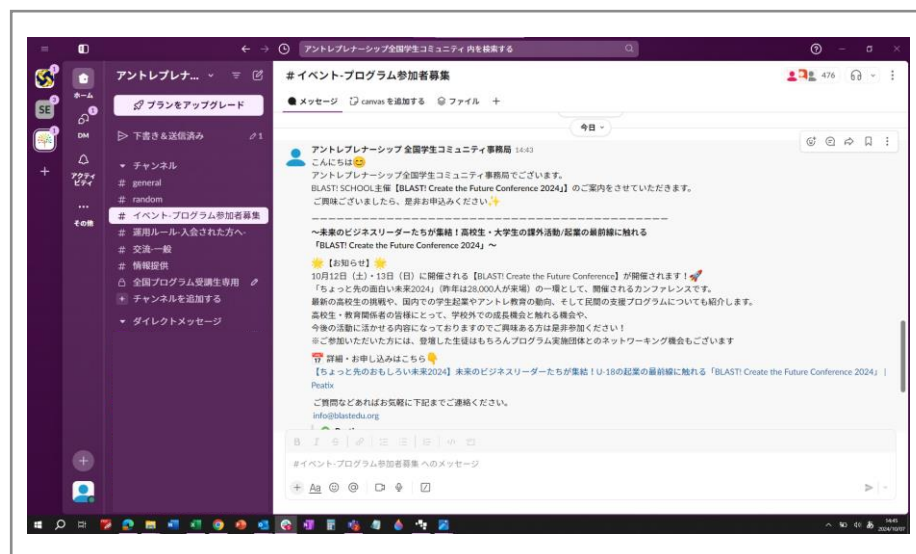
- 学生の関心が高いテーマにフォーカスし、厳選した情報を配信
- 閲覧者が情報過多で疲れを感じさせないため、配信頻度をコントロール

主な工夫

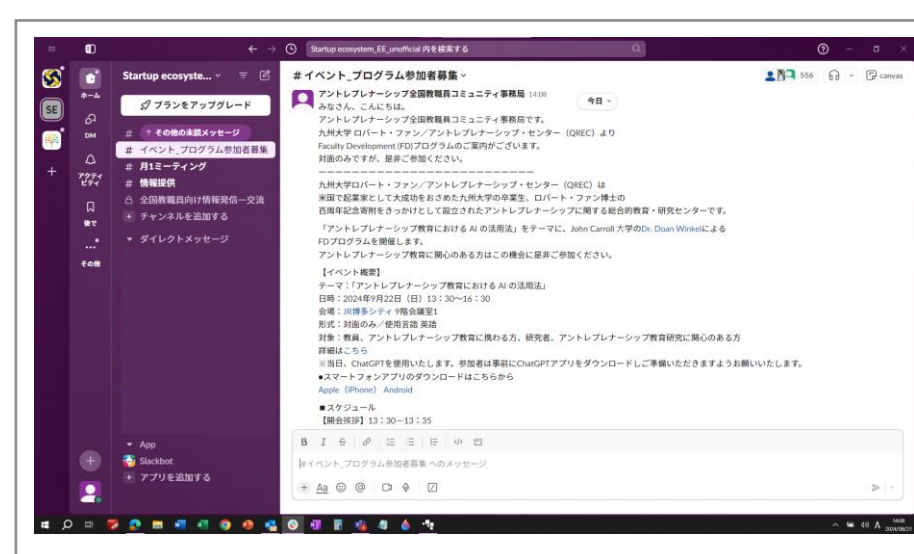
主体的な投稿の促進

- 絵文字の活用など、交流しやすい雰囲気を醸成
- アナウンスしたい学生には、事務局を通さず、自分で配信できるような機会を提供

学生向けSlack投稿例



教職員向けSlack投稿例



全国プログラム 学生（フォローアップイベント）

学生向けフォローアップイベントの開催

- ✓ 2024年7月6日に、学生交流イベントとして、2023度の全国プログラム開催半年後イベントを実施した

学生交流イベント

馬田隆明先生による講義
ワークショップ開催！

※会場では、プログラム終了後に交流会を実施予定

07.06 ± 12:50 - 16:00
※12:30開場

場所：Tokyo Innovation Base
(SusHi Tech Square2階)
定員：100名

ハイブリッド
無料開催



学生向けフォローアップイベントの概要

✓ イベントに参加していただくことで、経過アンケートの回収と学生コミュニティ形成を促すことを目指した

目的	- イベントに参加してもらうことにより、経過アンケート調査の回収率を向上させる - 学生同士の交流の機会を設け、学生コミュニティの形成を促進させる
方向性	- 馬田先生との交流を通じたイベント実施 - 学生同士でさらにコミュニケーションを深める
イベント企画	【コンテンツ】講義のみならず、同年代の学生にお互い発表してもらう想定 【形式】ハイブリッド開催 馬田先生による講義 学生間の発表
場所	Tokyo Innovation Base ROOM
日時	7/6（土）12:50～16:00（交流会含む）
タイムテーブル	12:50-13:00 学生受け入れ、事務局よりイントロ 13:00-13:10 冒頭導入、文部科学省開会のご挨拶 13:10-13:20 アンケート依頼 13:20-14:00 学生同士のワークショップ & 学生によるピッチ（馬田先生ファシリテーション） 14:00-15:00 馬田先生講義 15:00-15:10 ラップアップ＋グループフォト 15:10-16:00 交流会

イベントレポート

✓ イベントレポートとして、前編（講義）、後編（ピッチ・ワークショップ・交流会）をHPにて配信した



全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム 学生交流イベント（ハイブリッド開催）～実施レポート前編：講義「キャリア・アントレプレナーシップ」～

※本編は、イベントの前半に行われた講義を中心にまとめております。後編であるピッチ・ワークショップ・交流会もぜひご覧ください。

↓後編はこちら

後編：ピッチ・ワークショップ・交流会

概要

2024年7月6日（土）、Tokyo Innovation Base（TIB）にて、全国アントレプレナーシップ醸成促進事業の一環として、学生交流イベントをハイブリッド形式で開催しました。本イベントには、全国からの大学生・大学院生・高校生のみならず、民間企業や教職員、計60名弱が参加し、講演・ワークショップを通じて、キャリア・アントレプレナーシップに関する知識やスキルを深める機会となりました。

講師には、東京大学FoundX ディレクターの馬田隆明先生をお迎えし、「キャリア・アントレプレナーシップ」をテーマに講義が行われました。講義では、キャリアデザインにアントレプレナーシップを活かす方法について解説され、参加者は自律的なキャリア構築の重要性を学び、新たな知識やスキルを身につけ、自律的なキャリア構築のための第一歩を踏み出しました。

前編：講義（キャリア・アントレプレナーシップ）

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム 学生交流イベント（ハイブリッド開催）～実施レポート後編：ワークショップ・ピッチ・交流会～

※本編は、イベントの後半に行われたワークショップ・ピッチ・交流会を中心にまとめております。前編である講義「キャリア・アントレプレナーシップ」もぜひご覧ください。

↓前編はこちら

前編：講義「キャリア・アントレプレナーシップ」

イベント実施詳細

【ワークショップ】

参加者はグループワーク形式で以下ワークショップテーマについて議論しました。

ワークショップテーマ

- ①Fact：これまでの半年の間に始めたアントレプレナーシップを発揮した活動
- ②Insite：これまでの半年間で得られたアントレプレナーシップに関する自分なりの知見や洞察
- ③Try：これから半年の間に始めたいアントレプレナーシップを必要とする活動

上記のテーマについて、まずは個人でまとめを行った後、3～5人のグループを編成し、自己紹介とともにグループワークが始まりました。



後編：ピッチ・ワークショップ・交流会

参照：前編（<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/event/20240706-1/>）

参照：後編（<https://entrepreneurship-education.mext.go.jp/event/20240706-2/>）

全国プログラム 教職員（FD同窓会）

教職員向けフォローアップ企画（FD同窓会）の概要

- ✓ FDプログラムは、2023年度全国プログラムを受講した先生方が各教育機関でアントレ教育を展開できるようにすることを目的に開催した

プログラム全体等の目的・目標

全国アントレプレナーシップ人材育成プログラムで実施した内容を、
各教育機関でアレンジしながら展開できるようにすること

FD受講生の受講後の到達地点

受講した先生方が、コースで提供した資料を用いて、
自校でアレンジしたコースで実践できること

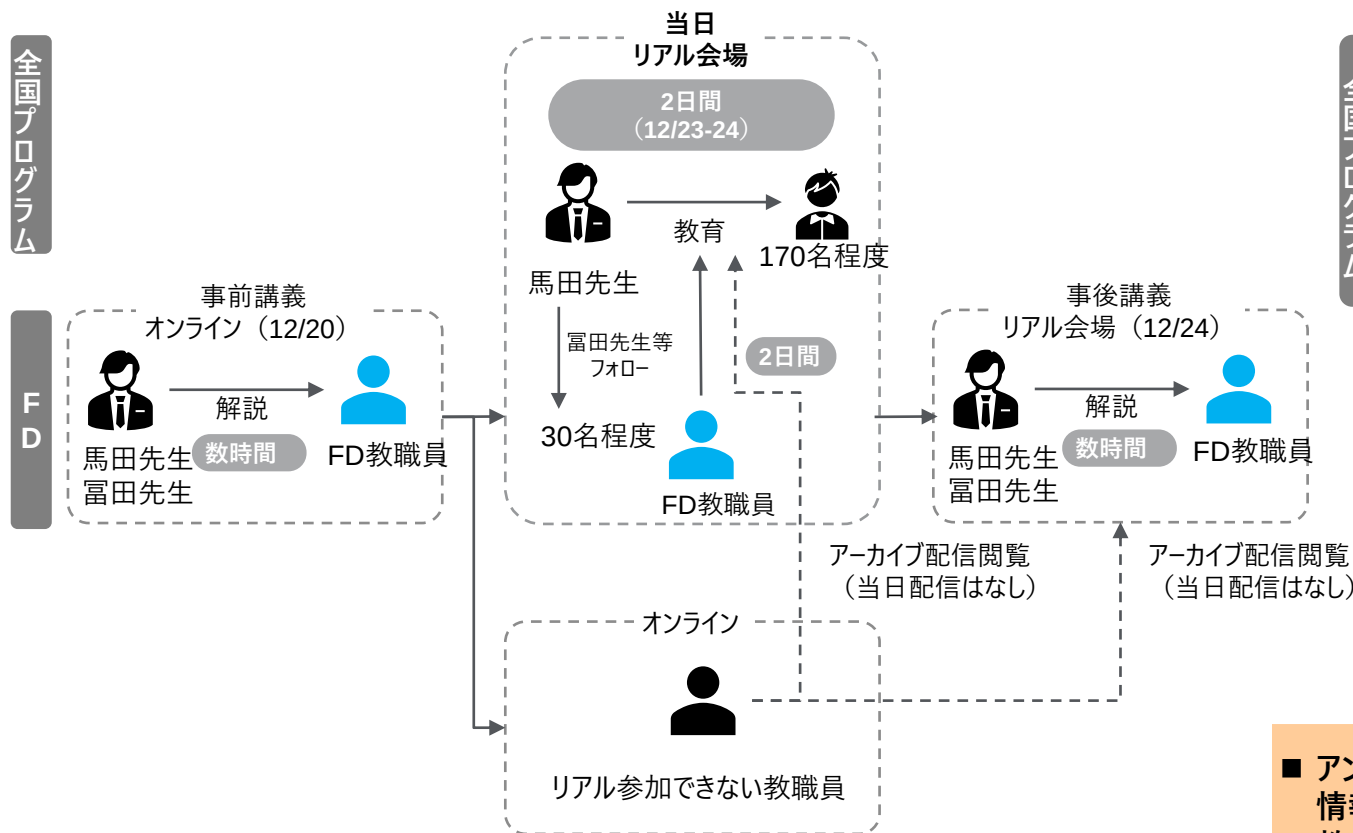
同窓会の位置づけ

アントレ教育の各教育機関での展開に向けて、取組内容と
展開における課題を話し合える場

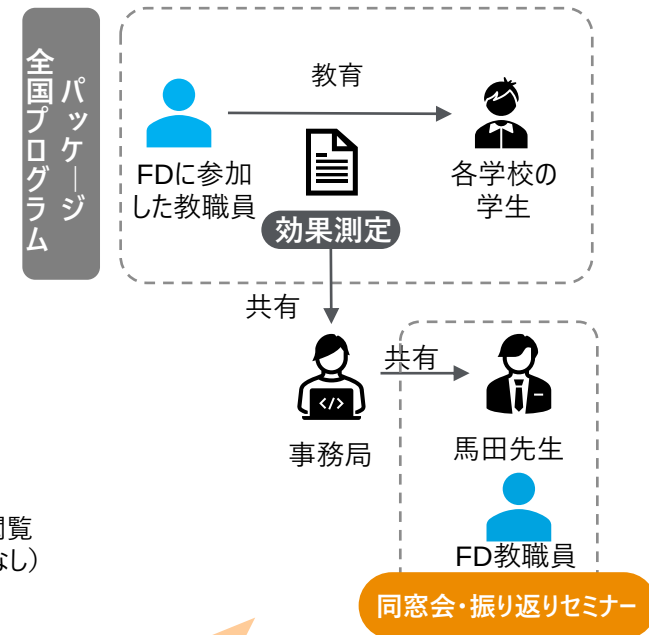
FDプログラムによるアントレ教育展開の全体像

- ✓ FD同窓会は、FD受講生がアントレ教育展開に向けた経験共有・課題相談会として開催した
- ✓ FD同窓会は、2024年4月25日、12月11日の計2回開催をした

全国プログラム



全国プログラムを踏まえ自大学で実施

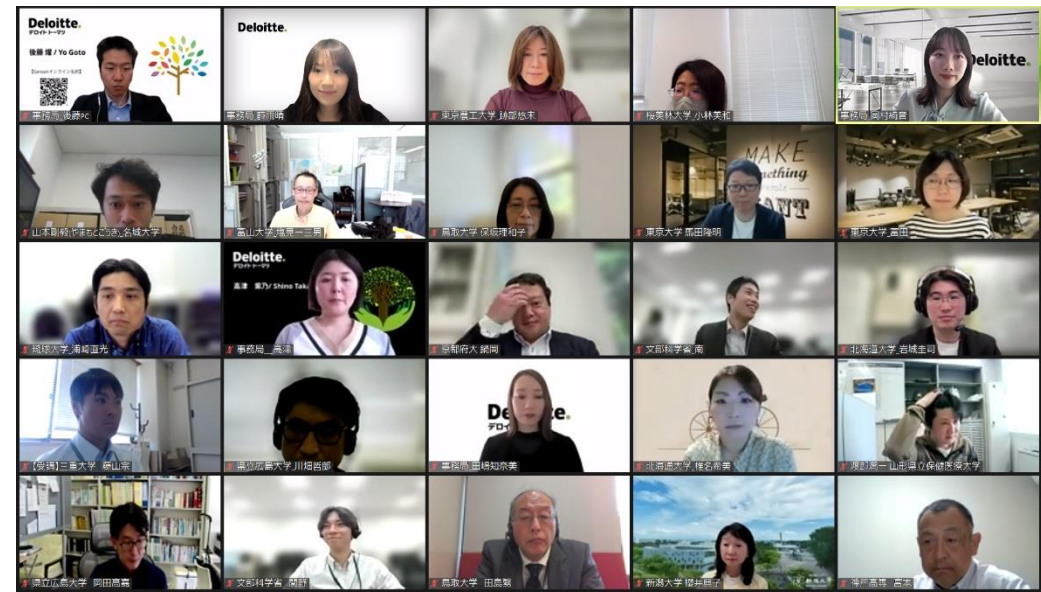


- アントレ教育展開に向けて、FD参加者による情報交換、経験共有等を実施
- 教育の効果測定にご協力いただける方には、アンケートフォームを共有

FD同窓会の開催報告（第1回目）

✓ 第1回目（2024年4月25日）のFD同窓会は合計17名のFD受講者の先生が参加いただいた

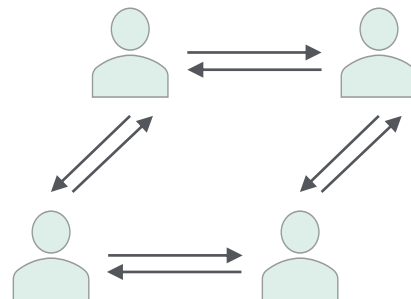
コンテンツ	時間
ご挨拶・同窓会趣旨説明	5分
FD受講生4名による経験共有 （北海道大学椎名先生、山形県立保健医療大学渡部先生、名城大学山本先生、三重大学藤山先生）	32分
ブレイクアウトセッションによる交流※	30分
交流結果の全体共有	15分
クロージング・簡易アンケート	8分



※【交流の手法】

情報交換や互いにサポートし合うために協働するアプローチ

→メンタリング



Aセッション

ブレイクアウトルームに入る前に

次の表の項目について記入しましょう。項目は適宜増やしてください

	現在のアントレ教育の展開実施状況	アントレ教育展開の課題
A	:	:
B	:	:
C	:	:
	:	:

ブレイクアウトルームで議論する内容

司会:XXさん
書記:XXさん
発表する人:XXさん
箇条書きの項目数は適宜増やしてください。

展開の課題

.....

自校で何を行うか

.....

FD同窓会（第1回目）の事後アンケート結果

- ✓ FD同窓会で得られた気づき・感想、アントレ教育の展開についてのお困りごとや障壁についてアンケートで回収した

FD同窓会で得られた気づき・感想（抜粋）

- 他大学の取組みについて理解できたので大変参考になりました
- 他大学の先進的な事例を学ぶことができ、勉強になりました
- また、人的交流もできてよかったです
- ネクストステップを考える、という取組みによって、解決志向で課題を確認することができました
- 私自身が、できることがたくさんあると思いました
- 実際に全国プログラムをそのまま導入されたプログラム（海外研修含む）も知ることができ、とても勉強になりました
- また、グループディスカッションの中で、そういえば本学には学生が集まることのできる「場所」がある、ということに気づき、その場所を起点としながら、学生のつながりを作れるかも、と思いました
- 海外プログラムとの組み合わせは面白いと思った

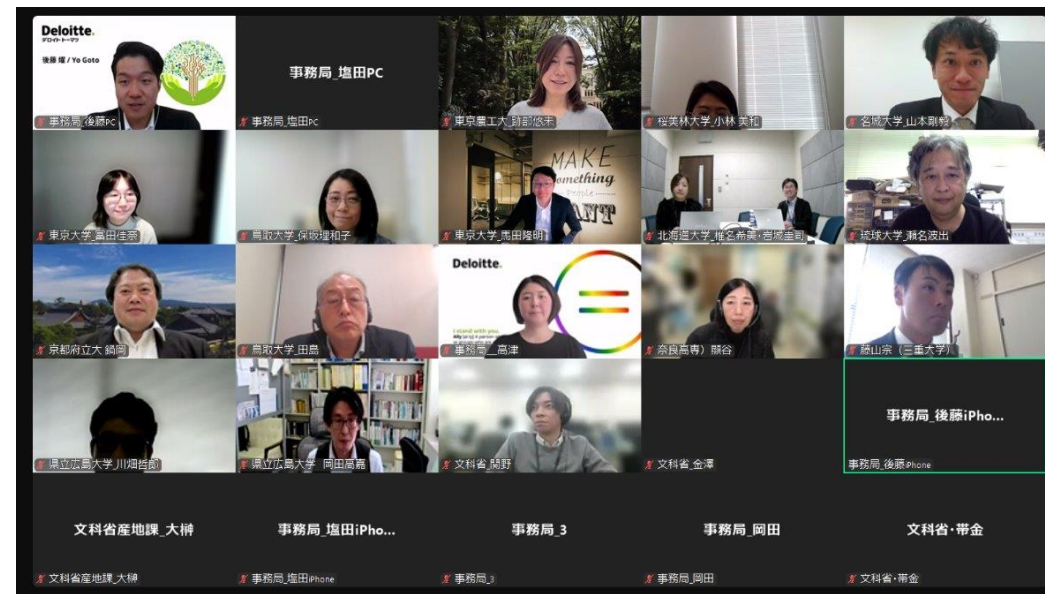
アントレ教育の展開についてのお困りごとや障壁（抜粋）

- アントレ教育の学内理解の浸透とチーム作り
- 学内の他部局との連携、アントレ教育指導人材不足
- 関心のある先生や学生を増やす、ということについては漠然とした不安があります
- せっかく制度設計が整ってきても、任期付きの身分なので、その後のバトンタッチや事務方の協力には（人員確保も含めて）限界もある
- 高度な博士や研究者向けのディープテックプログラムをつくりたいと考えております
- 構築にあたり気をつけなければならない点など知りたいです
- 継続性(資金の支援)

FD同窓会の開催報告（第2回目）

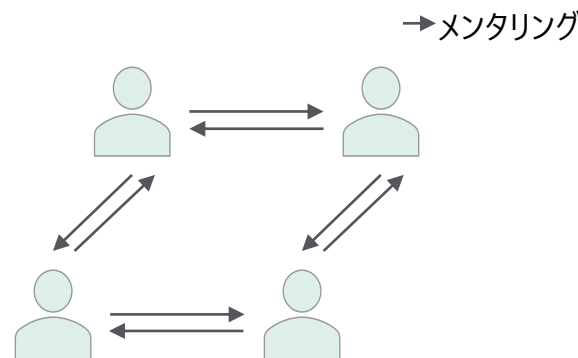
✓ 第2回目（2024年12月11日）のFD同窓会は合計13名のFD受講者の先生が参加いただいた

コンテンツ	時間
ご挨拶・同窓会趣旨説明	5分
FD受講生3名による経験共有 (京都府立大学鍋岡先生、鳥取大学保坂先生、 琉球大学瀬名波先生)	30分
ブレイクアウトセッションによる交流※	30分
交流結果の全体共有	15分
クロージング・簡易アンケート	10分



※【交流の手法】

情報交換や互いにサポートし合うために協働するアプローチ



Aセッション

ブレイクアウトルームに入る前に

次の表の項目について記入しましょう。項目は適宜増やしてください

	現在のアントレ教育の展開実施状況	アントレ教育展開の課題
A	:	:
B	:	:
C	:	:
	:	:

ブレイクアウトルームで議論する内容

司会:XXさん
書記:XXさん
発表する人:XXさん
箇条書きの項目数は適宜増やしてください。

展開の課題

.....

自校で何を行うか

.....

FD同窓会（第2回目）の事後アンケート結果

- ✓ FD同窓会で得られた気づき・感想、アントレ教育の展開についてのお困りごとや障壁についてアンケートで回収した

FD同窓会で得られた気づき・感想（抜粋）

- 各大学の取り組みが前進していて刺激を頂きました
- 他大学の取組みについて知ることができ、講義の進め方などの気づきを得た
- アントレプレナーシップ教育がカリキュラムとなっている大学が増えてきている
- 実施にかかる人と金の不足はどこも同じ課題であることがわかり、アントレ教育の持続可能なビジネスモデルを作る必要性を感じました
- 有益なコメントを得ることができた

アントレ教育の展開についてのお困りごとや障壁（抜粋）

- プログラムのマンネリ化が一部でできているような気がしている。大学に対して提案していきたい
- 学生数が大人数となる際の対応(500名程度)やオンラインでの実施方法など
- 人が不足している
- 担い手の育成と予算の確保
- セミナーをしても、学生が集まらない

全国プログラム 学生（教育効果測定）

2024年度全国プログラム実施におけるアンケート調査実施概要

✓ プログラム受講者及び非受講者に対して、アンケート（質問票）を配布して教育効果の測定を試行した

調査目的	■ プログラムの改善に関する教育的な評価を行えるように、プログラム受講によって学生の意識・行動変容を測定する
調査対象	■ トリートメント群：全国プログラム受講者（馬田先生の授業を受けた学生） ■ コントロール群：全国プログラムを受講していない学生（文部科学省から各大学に送付いただき、各大学から学生に送付）
調査方法	■ トリートメント群：プログラム受講前（T1）、プログラム受講後（T2）、プログラム受講半年後（T3）の計3回実施 ■ コントロール群：プログラム開始時期（T1）、T1回収時期から半年後（T3）の計2回実施

	T1	T2	T3
全国プログラム トリート メント群 (受講群)	・ 実施時期：2025/2/1配布 ・ 回答数：181件 (有効回答数165件)	・ 実施時期：2025/2/2配布 ・ 回答数：115件 (有効回答数92件)	・ 実施時期：2025年9月予定
コントロール群 (非受講群)	・ 実施時期：2025/1/30配布 ・ 対象者：全国の学生 ・ 回答数：3,497件 (有効回答数2,872件)	・ 配布無し	・ 実施時期：2025年9月予定

2023年度全国プログラム実施半年後の経過アンケート調査実施概要

✓ プログラム受講者及び非受講者に対して、アンケート（質問票）を配布して教育効果の測定を試行した

調査目的	■ プログラムの改善に関する教育的な評価を行えるように、プログラム受講によって学生の意識・行動変容を測定する
調査対象	■ トリートメント群：全国プログラム受講者（馬田先生の授業を受けた学生）、他校プログラム受講者 ■ コントロール群：全国プログラムを受講していない学生（文部科学省から各大学に送付いただき、各大学から学生に送付）
調査方法	■ トリートメント群：プログラム受講前（T1）、プログラム受講後（T2）、プログラム受講半年後（T3）の計3回実施 ■ コントロール群：プログラム開始時期（T1）、T1回収時期から半年後（T3）の計2回実施

	T1	T2	T3
全国プログラム トリート メント群 (受講群)	・ 実施時期：2023/12/23配布 ・ 回答数：135件 (有効回答数126件)	・ 実施時期：2023/12/24配布 ・ 回答数：121件 (有効回答数89件)	・ 実施時期：2024/7/5配布 ・ 回答数：57件 (有効回答数54件)
他校 プログラム トリート メント群 (受講群)	・ 実施時期：2023/12/18配布 ・ 回答数：45件 (有効回答数37件)	・ 実施時期：2024/1/29配布 ・ 回答数：36件 (有効回答数21件)	・ 実施時期：2024/7/23配布 ・ 回答数：3件 (有効回答数2件)
コントロール群 (非受講群)	・ 実施時期：2024/1/9配布 ・ 対象者：全国の学生 ・ 回答数：2,091件 (有効回答数1,761件)	・ 配布無し	・ 実施時期：2024/7/17配布 ※2024/9/2に文科省から全大 学に再度アンケート協力依頼 ・ 回答数：5,087件 (有効回答数4,339件)

教育効果の測定指標の選定及び開発

- ✓ 2022年度、2023年度の全国プログラムにて実施した評価指標をベースとしながら、2023年度と同じ指標を用いて2024年度は継続的な調査を行った

2022年度の実施状況
評価指標
コントロール変数
Big-5（パーソナリティ特性）
インテンション（起業家的な意図・意思）
コンピテンシー（起業家的な能力・行動特性）
パッション（起業家的な情熱）
エフェクチュエーション（起業家的な意思決定）
行動調整方略
Implementation intention, Goal intention, action (T2,T3のみ測定)

2022年度からの変更点
<削除項目> ・ エフェクチュエーション ・ 行動調整方略 ・ Implementation <追加項目> ・ 行動タイプ

2023年度及び2024年度の実施状況
評価指標
コントロール変数
行動タイプ
Big-5（パーソナリティ特性）
インテンション（起業家的な意図・意思）
コンピテンシー（起業家的な能力・行動特性）
パッション（起業家的な情熱）

教育効果の測定指標の選定結果（アンケート実施事項）

✓ 下記の項目をもとに、教育効果測定のためのアンケート票を作成した

項目	T1	T2	T3	出典	コメント
デモグラフィック変数	✓				
Satisfice	✓	✓	✓		
Big5	✓				
Entrepreneurial Intention	✓	✓	✓	※1	
Entrepreneurial Passion	✓	✓	✓	※2	尺度の一部を利用
Entrepreneurial Competency	✓	✓	✓	※3	尺度の一部を利用

#	指標	意味	設問の参考文献
1	インテンション（起業家的な意図・意思） Measures of core entrepreneurial intention model elements	行動に先立って、新しい事業を始めたり、起業家になるなどの起業家的行動に注意を向ける意識的な心の状態	Liñán, Francisco, and Yi-Wen Chen. "Development and cross-cultural application of a specific instrument to measure entrepreneurial intentions." Entrepreneurship theory and practice 33.3 (2009): 593-617.
2	コンピテンシー（起業家的な能力・行動特性） Entrepreneurial competency	事業を創設、開発、管理、成長させるために必要な一連のスキルと行動	Morris, Michael H., et al. "A competency-based perspective on entrepreneurship education: conceptual and empirical insights." Journal of small business management 51.3 (2013): 352-369.
3	パッション（起業家的な情熱） Entrepreneurial passion	起業活動が自分自身のアイデンティティと一致していると認識し、強烈でポジティブな感情	Cardon, Melissa S., et al. "Measuring entrepreneurial passion: Conceptual foundations and scale validation." Journal of business venturing 28.3 (2013): 373-396.

研究データ公開（文部科学省HP）

- ✓ 文部科学省のHPにて研究データを公開し、利用申請の受付を開始した

2.「アントレプレナーシップ教育に関する調査データ」の概要

アントレプレナーシップ教育の効果検証及びアントレプレナーシップ教育に関する研究の促進・研究環境の整備のため、調査データを公開します。利用にあたっては、以下の条件を遵守して申請してください。

1. 調査データ

「大学生の起業やスタートアップに対する意識やスキルに関する調査」

「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」において、受講生と非受講生のアントレプレナーシップの醸成度合を定点的に測定したものです。

（参考）「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」について

○実施：令和4年12月26日・27日・28日（3日間：計12時間）

○講師：東京大学 馬田隆明氏

○方式：オンライン

○内容：ビジネスでの起業をテーマにしたプログラム

プログラムの詳細については、[令和4年度科学技術人材養成等委託事業「全国アントレプレナーシップ醸成促進に向けた調査分析等業務」における調査結果【第2章】](#)を参照

調査実施概要

調査目的	■ プログラムの改善に関する教育的な評価を行えるように、プログラム受講によって学生の行動変容（マインド、能力、行動に関する変化）を測定する
調査対象	■ トリートメント群：全国プログラム受講者（馬田先生の授業を受けた学生） ■ コントロール群：全国プログラムを受講していない学生（文部科学省から各大学に送付いただき、各大学から学生に送付）
調査方法	■ トリートメント群：プログラム受講前（T1）、プログラム受講後（T2）、プログラム受講半年後（T3）の計3回実施 ■ コントロール群：プログラム開始時期（T1）、T1回収時期から半年後（T3）の計2回実施

	T1	T2	T3
トリートメント群 （受講群）	- 実施時期：12/26配布 - 対象者：プログラム受講者 - 回答数：216件 - ステータス：終了	- 実施時期：12/28配布 - 対象者：プログラム受講者 - 回答数：123件 - ステータス：終了	- 実施時期：2023年7月14日 - 対象者：有効回答者 - 回答数：21件（有効回答数20件）
コントロール群 （非受講群）	- 実施時期：12/27配布 - 対象者：全国の学生 - 回答数：1,494件 - ステータス：終了	配布無し	- 実施時期：2023年7月14日 - 対象者：有効回答者 - 回答数：206件（有効回答数198件）

質問項目一覧・サンプルデータ

- [質問項目一覧\(PDF:874KB\)](#)
[提供データ\(サンプル\)\(Excel:34KB\)](#)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1413730_00014.htm